

北大オリジナル
アカデミック・リーディングの基礎
ビデオ教材

Modular Approach to Reading

Foundations for Academic Reading Skills



北海道大学外国語教育センター

Reading ビデオ教材作成タスクフォース

Satoshi Oku
Jeff Gayman
Juhyeok Jang
@2020

revised 2020, December

Contents

General Introduction

Reading for Communication p.4

Unit 1 Grammar Matters p.9

Unit 2 Dictionary Helps p.16

Unit 3 Sentence Connector (1): *The* p.22

Unit 4 Working with Chunks p.28

Unit 5 Hypothetically Speaking p.33

Unit 6 Structures Signify p.40

Unit 7 Sentence Connector (2):

Pro-forms and Ellipsis p.47

Unit 8 Coping with Numbers and Names p.54

Unit 9 Inference

and Knowledge of the World p.62

Unit 10 Culture Bound

— & General Conclusion — p.68

Tips from Center for Language Learning

外国語教育センターからのメッセージ

- | | |
|---|------|
| (1) 「3つの呪い」から自由になろう | p.7 |
| 呪いその1：点数・成績の呪い | |
| 呪いその2：「ネイティブのように」の呪い | |
| 呪いその3：「役に立つ英語」の呪い | |
| (2) 「不規則動詞」：日本語にもあるよ！ | P.14 |
| (3) コロケーション：日本語でも無意識のうちに | p.20 |
| (4) Acronym (頭字語)で語彙力アップ | p.21 |
| (5) 定冠詞 the のあるなしが大きな違いに | p.26 |
| (6) かたまり (chunk) で考えることの重要性 | p.32 |
| (7) 語順を手掛かりに「前後のつながり」を見抜く | p.46 |
| (8) 代用表現：「訳語」を超えて | p.52 |
| (9) 固有名詞・数字：やさしそうに見えるものこそ reading の時にしっかり確認 | p.61 |
| (10) Reading が苦手 (不得意) な人：チャンスです | p.72 |

General Introduction: Reading for Communication

Hello, everyone. I am Jeff Gayman. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”. In this lecture series, we are going to learn various important aspects of reading for academic purposes.

みなさんこんにちは、奥聡です。このレクチャーシリーズでは、大学に必要なアカデミック・リーディングの基礎を学びます。受験勉強も終わり、いまさらリーディングなんて、と思う人もいるかもしれません。

You may think you are tired of reading; you want to learn something more “practical”. However, if you can just forget your test scores and school records, you may find many more attractive and useful aspects of reading activity, which is very practical indeed.

まずは、成績や点数をとるための勉強を卒業しましょう。そうすると、英語に取り組むことがずっと楽しく、また知的に魅力的な活動であることに気が付くはずです。そして、そのような reading の活動は実用的英語力全般の重要な基礎となります。

The very first important point to remember is that reading is not “translation.”

まず最初にしっかり覚えて欲しいことは、リーディングとは「英語を日本語に訳す」ことではない、ということです。

So, let us consider the following example. How to translate this sentence?

この文をどのように訳しますか？

“Save yourself!”

The proper answer to this question is “I don’t know. In other words, it’s impossible to translate it without any specific context”.

「文脈も何もないので、訳しようがありません」というのが誠実な答えですね。

It depends on the context: who the speaker is, who the addressees are, what the situation of the utterance is, and so on. That is, reading is communication with the author.

内容を読み取る、ということは、書き手（あるいは話し手）とのコミュニケーションです。

誰が誰に向かって書いたものなのか、どのような状況で書かれたのかを考慮に入れて、書き手が本当に伝えたいことをしっかり読み取ること、これが reading の本質です。

So let us provide two different specific situations for this sentence.

[状況・文脈その1]

The players are practicing hard at the end of the day. They have an important game tomorrow.

明日大事な試合を控えている選手たちが、練習終了の時間が近づいてもハードな練習を続けています。

Then, the coach yells. “Save yourself!” What the coach intends to mean is: “Don’t work too hard”, “Don’t waste your energy”, “Slow down”, and so forth. And there would be dozens of ways to translate this into Japanese.

この文脈なら、日本語で「あんまり飛ばすな～」「無理するなよ」「押さえとけ～」など、いろいろな言い方ができますね。ここで重要なのは、どう訳すかではなく、伝えようとしている「意味」を正確に理解することです。

What is the most important here is not how to translate, but rather to understand properly what the speaker intends to convey.

[状況・文脈その2]

Now, using the same sentence, let us consider the second situation: Pinocchio.

同じ文でも次の文脈ではどうでしょうか?

The angry whale is trying to attack Geppetto and Pinocchio in the sea; Geppetto is drowning and Pinocchio is trying to help him.

怒ったクジラが、海の上でゼペットとピノキオに襲いかかります。力尽きて溺れかけているゼペットをピノキオは何とか助けようとします。この状況で ...

Pinocchio: Father!

Geppetto: Save yourself!

What Geppetto intends to mean here is: “Don’t mind me.” “Mind your own life.” “Just leave me”, and so forth. And again there would be several ways to translate this into Japanese.

この状況なら、日本語では「お前だけでも助かれ」「ワシに構うな」「いいから行け」などいろいろ考えられます。ここで、先ほどのコーチのように「無理するなよ」という意味ではおかしいですね。

Reading is not just translation: 「読解」とは「訳すこと」ではありません

So, from these examples, you can see that reading is not translation; it is communication with the author.

You really have to try to understand what the writer or the speaker intends to mean.

リーディングは「訳すこと」ではない、ということが、これらの例からもよくわかるでしょう。

Then, what do we need if we want to have good communication with the author in a foreign language?

では、外国語で書かれたテキストの著者とよいコミュニケーションをとるには、何が必要でしょうか?

Vocabulary and grammar? Yes, but alone they are not good enough.

単語力と文法の正確な理解は必要です。しかし、それだけでは足りません。

What we really need are “inference”

推論する力

and “knowledge of the world”.

そして世の中に関する知識です。

They are also essential.

推論力 Inference と世の中のことにに関する知識 Knowledge of the World が不可欠

Jeff [finding a very nice place for beer]: [very happily] Hey, Jang san. Shall we go for some beer after 5:00 today?

Jang san: [Calmly] Oh, sorry. I have two term papers due tomorrow.

Speaker A: Shall we go for some beer after 5:00?

Speaker B: I have two term papers due tomorrow.

It is easy to understand that Speaker B turns down the invitation by Speaker A.

この会話、A の誘いを B が断っているということは簡単に理解できますね。

Why can we understand that Speaker B actually means “no” to speaker A’s suggestion?

なぜ、B は Yes とも No とも言っていないのに、A の誘いを断っていると、我々は理解できるのでしょうか？

We can do this by using our knowledge of the world and inference, which tell us that Speaker B is very busy now, and he has no spare time to go out with his friend, and therefore, he is turning down Speaker A’s invitation.

B の発言とこの文脈から、B は今忙しい、友達と外出している暇はない、よって、A と一緒に行けないということを伝えようとしている、と理解できます。

We can see from this example that inference and knowledge of the world are very important in understanding sentences. In other words, reading is an activity in which various types of our knowledge must be coordinated.

リーディングは、単語や文法だけではないことが分かりますね。推論力や世の中に関する知識がとても重要です。リーディングは総合力なのです。

Organization of the Series このビデオ教材の構成

Now, let me briefly show you the organization of this lecture series. **Unit 1**, and **Unit 3** through **Unit 7** are dealing with grammatical aspects of English, but from quite different perspectives from the school grammar you studied for your entrance exams.

Unit 1, そして **Unit 3** から **Unit 7** までは、受験勉強の時とは一味違う角度から、英文法を考えてみます。

In **Unit 2**, we will provide a few important hints about how to use your dictionaries effectively.

外国語が苦手な人は、実は辞書が上手に使えていないことが多いようです。**Unit 2** では、辞書の面白い使い方のヒントを紹介します。辞書は訳語を探すだけではありません。うまく利用すると、本当に役に立ちます。

In **Unit 8**, we will learn how to cope with numbers and names, which often can be a pitfall in reading texts in a foreign language.

数字と固有名詞、一見やさしそうなのですが、ここに落とし穴があります。ちょっと気を付けると、実践的な英語力の基礎になります。

And finally, in **Unit 9** and **Unit 10**, we are going to discuss the significance of inference and knowledge of the world, especially when the latter is culture bound.

最後の 2 つの Unit は、推論と世の中に関する知識の重要性を紹介します。これはしばしば見落とされがちですが、実際には語彙力や文法力と同じくらい重要な点ですので、しっかりと学んでください。

Reading is Communication with the Author : 「読解」とは書き手との「コミュニケーション」

Finally, you might wonder why reading? In this lecture series, we emphasize that proper reading activity gives you essential foundations for other aspects of your English.

点数や成績のためではなく、書き手とのコミュニケーションを意識した reading をしっかりやることで、他の実

実践的な英語力にとっても重要な基礎力が身につくのです。

Reading is communication with the author and reading is foundational for listening comprehension, clear and accurate speaking, and attractive and comprehensible writing.

つまり、しっかりとしたやり方で reading を行うことは、全ての実践的な英語力の基礎となるのです。

Jeff: So, are you ready?

Satoshi: We hope you enjoy the lectures.

Jang san: Good luck!

=====

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(1)

大学での外国語との付き合い方：まず「3つの呪い」から自由になろう

呪いその1：点数・成績の呪い

自分の（外国語）学習の目的は何ですか？

中学生・高校生の考え方：目的はよい点数を取ること、よい成績をとること

大学生は？ 人それぞれですが：

- ・自分の研究や仕事に必要な外国語文献を時々辞書も使いながら正確に読み取ること
- ・自分の研究や仕事に必要な情報発信を外国語で分かりやすくできる

（実際の情報のやり取りはメールや SNS など、読み書きを通して行うことが、圧倒的に多い。

直接会って話をするよりもはるかに多いのが一般的（日本語の場合でもそうかも）

つまり、読み書きの能力が一般的な大学生の外国語学習では最も重要です。

点数や成績を目標にしてもできるようにならない理由(1)

- ・自分の好奇心にもとづいていないので、長続きしない
- ・授業や宿題、試験は、毎日はない。（必修の授業がなくなれば、やられる勉強はゼロに）
- ・外国語学習の秘訣は、コツコツと長く続けること
- ・よって、点数や成績を目標にしてもできるようにはならない

点数や成績を目標にしてもできるようにならない理由(2)

- ・点数や成績を気にすると、どうしても友だちや他の人と自分を「点数で」比べてしまう。
- ・本当は興味があるのに、「友だちよりも点数が低い」→「恥ずかしい」→「苦手」→「嫌い」
- ・せっかくの自分の興味や好奇心（未知のことを学ぶのは本当は誰でも好き）に蓋をしてしまう

呪いその2：「ネイティブのように」の呪い

- ・学校での外国語学習の目的は「ネイティブのようになること」ではありません。
- ・中学高校での平均的な英語の授業時間は6年間で950時間です。

毎日16時間英語だけの生活をしている英語母語話者と時間を比較すると

$950 \text{ 時間} \div 16 \text{ 時間} = \text{約 } 60 \text{ 日 (2 ヶ月弱)}$

- ・平均的日本人は中高の間で、英語を「6年も」ではなく「2 ヶ月しかやっていない」のです。
- ・「ネイティブのように」ならなくても、全く問題ありません。

- ・非英語母語話者として、しっかり文献を読む力、分かりやすく発表をする力、分かりやすく丁寧に書く力を、自分の必要に応じてつけて行けばよいのです。
- ・非英語母語話者のスピーチでも（ネイティブのようにペラペラ話さなくても）世界中の人を引き付ける例はたくさんあります。

山中伸弥先生のノーベル賞受賞講演

<https://www.nobelprize.org/prizes/medicine/2012/yamanaka/lecture/>

Malala Yousafzai (当時 17 歳)の国連での speech

<https://www.youtube.com/watch?v=3rNhZu3ttIU>



北大生が目標とすべき、1 つのよいお手本でしょう。一部だけでも見て、参考にして。

呪いその3：「役に立つ英語」の呪い

- ・学校で学ぶ教科はどんな科目でもある程度は役に立ちますし、どんな役にでも立つものは1 つありません。
(体育を学んでも全員が国体に出られるわけではありません)
- ・6 年間で「2 ヶ月弱」しか学んでいない英語が、ありとあらゆる場面で「役に立つ」ことを期待する方が無謀でしょう。
- ・学校の教科は（どの教科も）、学習者が自分の資質や興味に合わせて、「自律的に」力を伸ばしていくための、基礎固めをするものです。
- ・「教えてもらって何かができるようになる」（中高生の発想）から「授業をきっかけとして、習ったことを土台にして、自分で何かができるようになってやろう」という発想にはやく切り替えることが重要。
- ・平均的には北大生にとって「役に立つ」「必要とされる」英語力は、専門の文献を早く正確に読み取る力、自分の研究結果を分かりやすい英語で書く力、分かりやすいプレゼンテーションをする力（山中先生のスピーチを参考に）など。（道を聞かれて、瞬時にすらすら、ぺらぺらと教える英語力は必ずしも必要ありません）

さあ、大学生になったのですから、もし、まだこの3つの呪いから解放されていない人は、早く呪いから自由になって、本当に自分の興味や好奇心を満たすような学習方法を編み出してください。このビデオ教材にそのためのヒントがあるかもしれません。

Unit 1 Grammar Matters

Hello, everyone. I am Piers Williamson. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”.

In this unit, we will examine the importance of grammar when you read and comprehend English sentences accurately.

みなさんこんにちは。奥聡です。このユニットでは、英文を正しく理解する上で、文法が本当に「役に立つ」ということを紹介します。まずは、日本語で「虫食い文復元ゲーム」をやってみましょう。

「てにをは」(文法機能を示す語) がとても重要 : Grammar Matters!

Let us first play a language game: “reconstruct a worm-eaten sentence”. Look at the following example in Japanese. Suppose that we found an old document, some parts of which have been eaten by worms and are missing. Try to fill in the missing parts and reconstruct the sentence. Note that there are several possibilities.

オオカミ__ 森__ 狩人__ 食べ__

虫食い部分に「てにをは」や動詞の語尾を入れて、この文を復元してみましょう。何通りの可能性がありますか?

オオカミが 森で 狩人を 食べた

In addition to this simple way, we may have the following as well.

オオカミが 森で 狩人に 食べられた

オオカミが 森の 狩人を 食べた

オオカミに 森の 狩人が 食べられた

さらに、おとぎ話の世界なら、次のパターンも可能でしょう。

If it is a fairy tale, the following reconstruction is also possible.

オオカミの 森が 狩人を 食べた

オオカミの 森が 狩人に 食べられた

In other words, content words such nouns and verbs alone cannot tell us what the sentence actually means. このように、「てにをは」や動詞の活用形など、文法機能語が文の意味を決める上で重要な役割を果たしています。

機能語の役割がとっても重要 : Grammar Matters!!

Now, we will see that exactly the same applies to English. Consider the following worm-eaten sentences in

English.

Alice ____ eat ____ carrots ____ the garden.

Try to reconstruct the sentence by filling in words or verbal endings in the blanks. Remember that there are several ways to do this. For example, you may easily construct the sentence like this.

Alice will eat the carrots in the garden.

And many other examples like these are also possible.

Alice can eat many carrots of the garden.

Alice has eaten some carrots from the garden.

Alice is eating carrots in the garden.

Further, if it is a fairy tale,

Alice was eaten by the carrots in the garden.

is also grammatically possible. Right? Now we can recognize an important fact about reading English sentences. Just looking at content words such as *Alice*, *eat*, *carrots*, *garden* is not good enough. Grammatical function words such as auxiliaries *has*, verbal endings such as *-en*, and prepositions such as *from* are crucial elements to understand the sentence accurately.

このような例を見るだけでも、英文を正確に理解するためには、文法を無視することはできないことがよく分かりますね。

Bearing this in mind, let us look at the very last part of the Lincoln's famous Gettysburg Address.

... We here highly resolve that these dead shall not have died in vain,
that this nation under God shall have a new birth of freedom
and that government of the people, by the people, for the people
shall not perish from the earth.

黄色でハイライトをした文法機能語（*このテキストでは太字下線部*）を無視して、*freedom*, *government*, *people*, *perish*, *earth* だけを見て、そこから全体の意味を想像しようとしても無理だということがわかります。

Satoshi (S): Hi Piers.

Piers (P): Hi Satoshi.

S: It seems you like that side.

P: Yes, I like this side because I speak English; the left edge is very important in English.

S: 英語では左端が重要、とはどういうことでしょうか。日本語話者の私は、実は、右端が好きです。日本語では右端が重要なのです。

日本語は塊の「右端」に注目 : Watch the Right Edge of Japanese

Look at a Japanese example.

太郎はご飯をたべた

右端に疑問文の標識「の」を加えると、

太郎はご飯を食べたの?

というように、疑問文になりますね。

If you add a question marker “No” with a rising intonation at the right edge, the sentence turns into a question sentence.

ではクイズです。下線部にそれぞれ平仮名を1つ入れて、文を完成させてください。

Fill in one “Hiragana” in each blank and complete the sentences.

悠子は [太郎がご飯を食べた__] 思っている

「悠子は[太郎がご飯を食べたと]思っている」

Yes. By adding the declarative marker “to” at the right edge of the embedded clause, the embedded sentence is marked as a declarative clause.

埋め込み文の右端に「と」を入れることで、この従属節が平叙文であることをマークしています。

次の文はどうですか？

悠子は [太郎がご飯を食べた__] 尋ねた

Notice that you use a different marker when the embedded clause is a question type.

「悠子は [太郎がご飯を食べたか] 尋ねた」

By adding the question marker “ka” at the right edge of the embedded clause, the embedded sentence is marked as an interrogative clause.

埋め込み文の右端に「か」を入れることで、この従属節が疑問文であることをマークしています。

英語は塊の「左端」に注目 : Watch the Left Edge of English

Now, let us consider the English version. Look at these sentences.

下線にそれぞれ英単語1語を入れて、文を完成させてください。

Yuko said [__ John ate the pizza].

Put one word in the underlined part to complete each sentence.

Yuko said [that John ate the pizza]. By adding “that” at the LEFT edge of the embedded clause, you can

mark the clause as a declarative clause. Now, how about the next sentence?

Yoko asked [____ John ate the pizza].

Just like the Japanese case we have just seen above, we use a different marker. Yoko asked [if John ate the pizza]. To complete this sentence, you have to add a question marker “if” at the LEFT edge of the embedded clause. You can use “whether” instead in this case, but the point is you mark the clause at the LEFT edge in English. This “if” indicates that the embedded clause is an interrogative type.

日本語では右端で、英語では左端で、文のタイプをマークすることが重要なポイントです。

Now, let us next consider multiple choice quizzes.

では、次のクイズです。

四角カッコの部分は、その本がどのような本なのかを説明している修飾節です。

太郎は [田中が {書いて
書いた
書きました
書き}] 本を読んだ

The bracketed part is supposed to modify the book to explain what kind of book it is. Which is the most appropriate form of “kaku”? Of course, it is “Kaita” that is the most appropriate form in this case.

このカッコの部分が、「本」を修飾する節として機能するには、カッコ内の右端の動詞の形が日本語では大変重要なのです。

The form of the verb at the right edge is extremely important in Japanese, to indicate the function of the clause properly.

[_____ 動詞] + 修飾される名詞
(修飾節) * 右端の動詞の形が最重要 : 「連用形」 でなければならない

Let us finally consider English.

Which is the most appropriate form to make the bracketed clause function as the one modifying the book?

四角カッコが the book を修飾する節として機能するためには、どの wh 語が最も適切ですか？

John read the book [{ who
when
which
whose } is expensive].

Of course, it is “which” that is the most appropriate form here.

この四角カッコの部分が、the book を修飾する節として機能するには、カッコ内の左端の関係代名詞に何を使う

かが英語では大変重要なのです。

The form of the relative pronouns at the LEFT edge is extremely important in English, to indicate the function of the clause properly. In order to decide the correct form of the relative pronoun, you have to take into consideration the semantic type of the antecedent noun phrase as well as the relation between the noun phrase and the modifying clause.

修飾される名詞 + [関係代名詞 _____]
(修飾節)

*左端の関係代名詞の形が最重要（先行詞のタイプと修飾節の関係で決まる）

Wrap Up まとめ

OK? Let us wrap up today's point.

それでは今日のまとめです

虫食い文復元ゲームで見たように、日本語でも英語でも、文法機能語の役割はとても重要です。

Grammatical function words such as prepositions, auxiliary verbs, articles, and verbal endings are crucial to understanding English sentences properly. Not looking at these words carefully is just like ignoring “te, ni, o, ha” in Japanese.

これらに注意を払わない英語の読み方は、「てにをは」を無視して日本語を読もうとするようなもので、正確に理解することはできないということは明らかでしょう。

Next, we have seen the right edge is important in Japanese, while the left edge is crucial in English.

かたまりを見つけ、その左端の要素に注目することが、英語の構文を読みといていくための有効な方法でしょう。

When you find a chunk or a unit in an English sentence, examine the left edge. It will give you a significant clue to identifying the function of that chunk or unit.

さあ、まとめのクイズです。

次の文で、「学校」は太郎の出発点ですか？それとも到着点ですか？

太郎は [学校 ____] やって来た
John came [____ the school]

Is “the school” John's destination or John's point of departure?

日本語では右端が、英語では左端がこの解釈の違いを決定づけますね。

Now, you all know that the right edge is the key in Japanese, whereas it is the left edge that is the key in English.

(*Keys: 日本語の例では、[____]の右端に「から」を入れるか「に」を入れるかで決まります。英語の例では、[____]の左端に「from」を入れるか「to」を入れるかで決まります。塊の「端」の要素が重要な役割を果たしているわけです)

[Piers and Satoshi are standing on the wrong sides]

Satoshi (S): さあ、今日のレッスンはいかがでしたか？

Piers (P): Satoshi! We are on the wrong sides!

S: Oh! You are right. What a shame!

[Exchange the locations]

P: Well, how was today's lesson.

S: (Phew. I'm comfortable here)

P: We hope you enjoyed it. Good luck, and keep working hard!

=====

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(2)

「不規則変化」：日本語にもあるよ！

英語をはじめ欧米の言語を学び始めると「不規則変化」という現象に出会い、戸惑う人が少なくないようです。「どうして、不規則変化などがあるんだ！面倒くさい」と思ってしまうかもしれません。たとえば、以下の英語の例は、最初の子音[s]だけ、あるいは[g]だけが共通項で、その後に続く形（発音）が変わっています。

see	-	saw	-	seen
give	-	gave	-	given

規則変化なら、play – played, love – loved, walk – walked などのように、-(e)d を付ければよいですね。日本語はどうでしょうか。

見る	見た	見ない
食べる	食べた	食べない

「見(mi)」が語根で、そこに語尾変化「-る」「-た」「-ない」を付けています。「食べ(tabe)」と合わせてみれば、このパターンはとても規則的に見えます。「見(mi)」が共通項で変化しませんし、「食べ(tabe)」も共通項で、変化しません。母語である日本語には不規則変化などという「不規則」なものはない、と思い込んでいるのかもしれませんが、しかし、日本語にもありますよ。次の2つの動詞、それぞれ語根（変化しない共通部分）はどこまでですか？

くる	きた	こない
する	した	しない

漢字に惑わされないでください。「来る(kuru)」「来た(kita)」「来ない(konai)」とローマ字表記にすれば明らかに、発音上の共通項（語根に当たる部分）は[k]という子音だけです。「する(suru)」「した(sita)」「しない(sinai)」でも、発音上の共通項（語根に当たる部分）は[s]という子音だけです。共通項をひらがなで表すこともできません。最初の子音部分だけが共通項である不規則変化動詞、どこかで見たことはありませんか。そう

ですね。英語の *see/saw/seen* や *give/gave/given* などと同じようなパターンなのです。

では、*go – went* はどうなるの？という質問がきそうです。とてもよい質問ですね。*go* と *went* の場合は、他の不規則動詞 (*see/saw* や *give/gave* など) と異なり、発音上の共通項が全くありません。共通の語根を持たないものが現在形と過去形として使われているのです。いったい何が起こったのでしょうか。これは別々の 2 種類の単語のうち、一方から原形 *go* と過去分詞 *gone* が採用され、もう一方から過去形 *went* が採用されたパターンとなっています。もともと共通の単語ではないものが混ざっているのです。(興味のある人は複数の辞書で *went* を引いてその説明を見てください)

このようなパターンを**補充法 (suppletion)**と言います。英語ではこのほかに、*good – better* があります。さすがにこんなおかしいことは日本語にはないと思いませんか？ ありますよ。まず、次の動詞の原形と可能形を見てください。

<u>原形</u>	<u>可能形</u>
食べる	食べられる
読む	読める
yom-u	yom-eru
歩く	歩ける
aruk-u	aruk-eru

これらはすべて、原形の語根 (共通部分) に可能の語尾 (*-eru*, *-rareru*) が付くことによって可能形になっていますね。それでは、動詞「する」の可能形は何ですか？

<u>原形</u>	<u>可能形</u>	
する	できる	(*する)

「できる」ですね。これは「する」と発音上の共通項はありません。「する」とは全く別系統の動詞をもってきて「する」の可能形として使っているわけです。これは日本語における補充法の例で、英語の *go – went* と同じ現象が見られるわけです。

自分の母語 (皆さんの場合は多くは日本語) はほぼ無意識のうちに身につけて、無意識のうちに使っていますから、そこに不規則動詞があったり、補充法があったりということに普段はほとんど気が付きません。そして、外国語でそのような現象が出てくると、「(日本語にはないような) 不規則変化が外国語にはある」と思い込んでしまうわけですね。しかし、よく調べてみると、同じタイプの現象が日本語にも見られることが分かります。母語の「再発見」も外国語学習の醍醐味の 1 つなのです。

Unit 2 Dictionary Helps

Hello, everyone. I am Jeff Gayman. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”. In this unit, we will examine how useful our dictionary is.

みなさんこんにちは。奥聡です。ユニット2では、英文を正しく理解する上で、辞書がとても役に立つということを紹介します。

たとえば、みなさん、*practice* という単語や、*work* という単語、意味をしっかりと理解していますか。辞書を引くまでもない、と思っていますか。

You may think that we do not have to consult a dictionary to confirm the meaning of easy words such as *practice* or *work*, for instance, but is this true? Look at the following example.

“After he graduated from the medical school of Hokkaido University, Jun Watase started a medical **practice** with his friend Shin Homma in Otaru. Their new business, however, did not **work**.”

[Dictionary Work]

上の文脈に合うような *practice* と *work* の意味を、辞書で丁寧に探してみて。
電子辞書に英英辞典が入っている人は、そちらでも調べてみるとよいでしょう。

If you understand the word *practice* as one conventional meaning, “training to improve your skill,” the sentence sounds very weird.

もしこの *practice* を医学の「練習」と理解してしまうと、とても恐ろしい病院になってしまいますね。

Likewise, if you understand the word *work* here as “do something as a job,” again the sentence is not properly understood.

この *work* も「働く」という意味で理解しようとする、「新しいビジネスは「働かなかった」」となり、何かおかしい文になってしまいます。さあここで、ちょっとビデオを止めて、*practice*、*work* を辞書で調べてみましょう。この文脈にふさわしい意味を見つけてください。

If you look up these words in your dictionary very carefully, you may find out their appropriate meaning in the current context.

The more general meaning of *practice*, you may find in your dictionary, is “actually do something” not just think about it.

Practice の一般的な意味は、*theory* (理論や理屈) に対して、「実際に行うこと」であると辞書でわかりますね。「練習」という意味はその特殊な例です。

Hence, this sentence means that they started their business as doctors, not just did their medical training.

Furthermore, your dictionary may tell you that *work* here means “be successful, effective, or satisfactory”.

So the sentence means their business was not successful.

動詞 *work* のこの意味は、アカデミックなレベルの英語では、非常によく使われるので、しっかり覚えておくといいいでしょう。

Collocation コロケーション：単語同士の相性

OK, let us play a language game: reconstruct a worm-eaten sentence.

では、Unit 1 に引き続き「虫食い文復元ゲーム」をやってみましょう。まずは日本語の例から。

[虫食い文復元ゲーム]

健太は 智子___ その本___ 渡した

悠子は 博史___ 帽子___ 買ってあげた

智子、その本、博史、帽子、それぞれの後に助詞を 1 つ入れてください。

We know that “kakujoshi” or grammatical case markers are very important in Japanese.

「健太は智子にその本を渡した」「悠子は博史に帽子を買ってあげた」

It is easy, right? Now then, let us look at the corresponding English sentences.

Kenta gave Tomoko **the book**.

Notice that the word order is very important in English and you cannot convey the same meaning if you change the word order and say:

??Kenta gave **the book** Tomoko.

which sounds very strange. Likewise, corresponding to the second Japanese sentence, we may say:

Yuko bought Hiroshi **a hat**.

but the sentence sounds a bit off if you say:

??Yuko bought **a hat** Hiroshi.

OK? Now given this, try to reconstruct the following worm-eaten sentences in English.

さあ、次は英語の虫食い文復元ゲームです。

[Worm-Eaten Sentences]

Kenta gave **the book** [] Tomoko.

Yuko bought **a hat** [] Hiroshi.

Fill in a word in the blanks and complete the sentences. Stop the video now and think, and before you restart, look up *give* and *buy* in your dictionary.

give は「あげる」「与える」、buy は「買う」なんて、知ってるよ、と思うかもしれませんが、是非ビデオを止めて、辞書でその使い方を丁寧にみてください。

Kenta gave the book to Tomoko, and Yoko bought a hat for Hiroshi. Note that you cannot use *for* with *give* and you cannot use *to* with *buy*.

ここで、*to* と *for* を入れ替えることは、通常できません。日本語では、「智子に」「博史に」のように使いますが、英語では *give* の場合は *to*, *buy* の場合は *for* となります。

This kind of intrinsic selection relation between words is called “collocation.”

このような単語同士のきまった相性のよさをコロケーションと言います。

So, it is not good enough to remember the meaning of words in isolation. Rather, it is a very good idea to try to remember the meaning of words together with their collocation property. Let us look at one more basic word with a similar meaning to *give*. What would be the appropriate prepositions to fill in the blanks?

[Worm-Eaten Sentences]

学生にその情報を与える

They provide **the information** [] the students.

They provide the students [] **the information**.

Again, your dictionary tells you *for* is necessary in this word order: *They provide the information for the students*. And you have to use *with* in this word order: *They provide the students with the information*.

日本語では、「学生に」と「情報を」の語順を変えても、意味が同じであれば、助詞は変わりませんが、英語の場合は前置詞が変わる場合があるので、注意が必要です。やさしい単語だからといって、その訳語だけを単独で覚えて安心してしまわずに、その単語のコロケーションも一緒に覚えておくと、正確に書いたり話したりする力もつきます。

The knowledge of collocation of words is very useful, not only for reading but also for speaking and writing English accurately.

give [something] **to** {somebody}

buy [something] **for** {somebody}

provide [something] **for** {somebody}

provide {somebody} **with** {something}

give は *to* と相性がよい

buy は *for* と相性がよい

provide は語順によって

for と *with* を使い分ける

And your dictionary contains a plethora of useful information about the collocation property of many basic words.

[Jeff, having two cards 「札幌で」 and 「札幌に」, is wondering which is appropriate. Then, Satoshi comes in.]

Satoshi (S): Hi Jeff. What are you wondering about?

Jeff (J): Hi Satoshi. I am wanting to say in Japanese that I am living in Sapporo and I am wondering if I should say “Sapporo *de*” or “Sapporo *ni*.”

S: I see. Well, it actually depends on what Japanese verb you use for “living.” In other words, you have to appreciate Japanese collocation.

英語のコロケーション、ちょっと厄介だな~と思うかもしれませんが、実は、日本語にもたくさんあります。

Taro is living in Sapporo.

太郎は札幌で、暮らしています。

You use “de” here; you may also use “ni” in this case as in ...

太郎は札幌に暮らしています。

However, if you use “sundeiru” for living, the collocation is more restricted.

しかし、動詞を「住んでいる」に代えると ...

太郎は札幌に住んでいます。

“Sapporo ni” is OK, but “Sapporo de” sounds unnatural.

「札幌で住んでいる」は不自然になりますね。

This is one instance of Japanese collocation among many others.

母語であれば、無意識のうちにコロケーションを正確に使い分けています。

So it is very important to acknowledge collocation when you learn a foreign language.

ただ、訳語を探すだけでなく、コロケーションや他の用法を丁寧に見ると、辞書は本当に役に立ちます。

Try to “read” your dictionary, focusing not just on the meaning of the word in isolation, but rather focusing on collocation and other usages and functions of the word.

Acronyms 頭字語 : 語彙力アップの裏ワザ

Let us do one more dictionary work.

[Jeff and Satoshi, sitting next to each other and reading an academic paper.]

Jeff (J): Satoshi! I have to buy some dictionaries. I need to withdraw some money. Do you know where the nearest ATM is?

Satoshi (S): Ah, there is one in the coop cafeteria, which you may find easily.

J: Ah, great, thanks. By the way, do you know what ATM stands for?

S: ATM?

みなさん、ATM にはお世話になっていますね。ところで ATM は何の略でしょうか。

Consult your dictionary to find out what “ATM” stands for.

(※辞書で調べてみて※)

It is Automatic Teller Machine, but what does “Teller” mean here?

Your dictionary tells you that “Teller” originally means “a person whose job is to receive and pay out money in a bank.”

つまり、teller とは銀行の出納係のことです。

One of the basic verbs in English *tell* has a lot of interesting meanings, usages, and functions.

OK, let us wrap up today's points.

Wrap Up まとめ

First, some words look very easy at first glance and you believe that you know the meanings of them. However, it is often the case that basic words have various meanings and functions. Therefore, it is important to consult your dictionary. Don't stick to just one translation of each word. Second, it is crucial to learn collocation property of basic words, and your dictionary tells you a lot of useful information about this. So, ask your dictionary, not just for one meaning of words. Rather, read your dictionary carefully and then you can find a lot of useful information.

基本的な単語でも、ただ1つの訳語を覚えるのではなく、辞書を丁寧に読んで、その単語の使い方、さまざまな意味、コロケーションの情報などをしっかり確認する習慣をつけると、リーディングがどんどん楽しくなってきます。難しい英語も、辞書を上手に使いえば、正確に読めるようになるでしょう。

[Satoshi, reading a difficult book with an electronic dictionary]

Satoshi (S): Jeff, are you reading a difficult book, too?

Jeff [off screen, 少し遠くから]: Yeah, but no worries. I have a lot of good dictionaries to consult.

[Jeff, reading a "very" difficult book using a lot of big dictionaries]

Well, that's all for today. Good luck, and see you next time.

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(3)

コロケーション：日本語でも無意識のうちに

「コロケーション」、単語同士の相性のよさは、できるだけ正確に理解して使うようにすると、その外国語の自然な表現になります。Reading をやっている時に常にそのようなつながりを意識して覚えるようにするとよいでしょう。ただ「訳す」Reading よりも、ずっと有効な勉強法になるはず。「コロケーションなんて面倒くさい」と思う人もいるかもしれませんが、日本語にもたくさんあります。自然なコロケーションに従わないととてもおかしい表現になるということを、日本語の例をとおして実感してみましょう。

衣服や装飾品などを身に付ける動作を英語では put on と言います（身に付けていない状態から身に付けている状態への変化を表す句動詞（phrasal verb）です）。たとえば、

put on a hat	put on the shirt	put on the shoes	put on glasses	put on pants
put on lipstick	put on gloves	put on a ring	put on makeup	

さて、英語では全て同じ put on ですが、日本語ではそれぞれ何と言いますか？

帽子を <u>かぶる</u>	シャツを <u>着る</u>	靴を <u>履く</u>	眼鏡を <u>かける</u>	パンツを <u>はく</u>
口紅を <u>塗る</u>	手袋を <u>する・つける</u>	指輪を <u>はめる</u>	化粧を <u>する</u>	

同じ「身に付ける」という動作であるにも関わらず、「身に付けるものが何か」「体のどの部分に付けるのか」などによって、たくさんの言い方を使い分けています。これはコロケーションの一種ですね。その証拠に、慣例的なコロケーションに反した表現は、ものすごく不自然になります。「??帽子を履く」「??眼鏡を着る」「??靴をする」「??口紅をかぶる」。これは、日本語を学習中の留学生がとても苦労しているところです。外国語学習におけるコロケーションの難しさ（そして面白さ）は、「お互いさま」だということが分かります。

ちなみに北海道では「手袋をはく」というのが正しい言い方ですので、道外から来た人も北大にいる間は、正しく「手袋をはく」と言えるように、しっかり練習してください。

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(4)

Acronym（頭字語）で語彙力アップ

ATMのように日常生活でたくさんの acronym を使っていますし、耳にしますね。気が付いた時にちょっと立ち止まって何の略であるのかを調べてみると、思わぬ発見があり、語彙力アップのきっかけになるかもしれません。何よりも単調な語彙学習が一気に楽しくなるかもしれません。まずは以下の acronym を調べてみて。

UFO	ID	AIDS	MVP	VIP
USB	DVD	radar	scuba	

「未確認飛行物体（UFO）」と「身分証明書（ID）」に共通の単語（identify）が含まれていることが分かったり、MVP や VIP は中学生でも知っている単語からできていることを発見したり、radar や scuba が実は acronym だったということに気が付いたり、興味深い事実がたくさんあります。

Unit 3 Sentence Connector (1): *The*

Jeff (J) : Hello, everyone. I am Jeff Gayman. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”. In Unit 3, we will examine one of the most important sentence connectors in English; namely the article *the*. Satoshi (S) : みなさんこんにちは。奥聡です。このユニットでは、日本人英語学習者が苦手とする定冠詞 *the* について少し考えてみます。

Known/Old Information vs. New Information 既知の情報（旧情報）と新情報

Jeff: Let us start by looking at the following worm-eaten sentences in Japanese.

それぞれの下線部に「は」か「が」を入れるとしたら、どちらを入れるとそれぞれ自然な文になりますか？

[虫食い文復元ゲーム]

- (1) 山田先生が、図書室にきました。先生____ 2 階の閲覧室に用事があるのです。
- (2) 朝 9 時に CALL 教室を覗いてみると、学生____ 1 人勉強をしていました。

Yes. For (1), it is most natural to put *wa*, and for (2), *ga* makes the sentence most natural, but why is this so?

「先生は 2 階の閲覧室に行きました」

Wa makes the subject noun phrase the Topic of the sentence, and in most cases, the topic subject is known or old information to both the speaker and the hearer.

「は」の重要な機能の 1 つとして、文の主語を既知の情報として、文のトピックとして提示するという働きがあります。

And the following part of the sentence, that is, the predicate gives new information about the subject.

述語の部分はその主語に関する新しい情報を与える働きをしています。

How about (2) then?

「学生が 1 人勉強をしていました」

In this case, the whole sentence is presented as new information.

この場合は、文全体が新情報として提示されていますね。

OK? Now let us consider the English counterparts.

[Worm-Eaten Sentences]

What would you put on the underlined parts to make the sentences natural, *the* or *a*?

- (1) Professor Yamada visited the library. ____ professor went to the reading room there.

“The professor went to the reading room there” sounds most natural in this context. This *the* attached to *professor* makes the subject noun phrase the topic and the known/old information.

この *the* は、*professor* が既知の情報であり、この文のトピックであることをマークしています。

And the predicate part *went to the reading room there* provides new information about the subject.

そして、述語の部分が、その主語に関して新しい情報を述べています。

In (2), on the other hand, the indefinite article *a* is most natural here to attach to student, and crucially, the whole sentence constitutes the relevant new information.

“a student was studying there”.

この場合は文全体が新しい情報として提示されています。

Let us summarize the point so far.

Interim Summary 中間まとめ

In English, it is often the case that the subject with the definite article *the* is the topic and old information, and the predicate provides new information about the subject. When the subject has the indefinite article *a*, on the other hand, the whole sentence is presented as a new information unit.

[_文 [The + X] + [predicate ...]]
Topic new information
old information

[_文 [A + X] + [predicate ...]]
new information

Therefore, Context A and Context B can be completely different.

Context A “... and the student was reading papers”

Context B “... and a student was reading papers”

主語に *the* が付いているのか、*a* が付いているのかの違いだけで、文の意味や使われる文脈は全く変わってくるのです。*the* と *a* の違いに注意を向けて *reading* をすることで、正確な理解につながるのです。

***The* as an important sentence connector: The は重要なつなぎことば**

Now, bearing this in mind, let us consider the following English passage.

I have an English class this afternoon. **The** topic is about a farmer who owns a rabbit, a gorilla, and a carrot. **The** textbook is not very interesting, but **the** professor makes **the** students involved so that **the** class always turns out to be active and stimulating.

Now let us focus on the function of several occurrences of the article *the* in this text. It is easy to understand why we have *the* on this word *class* here.

「今話題している英語のクラス」という意味で、*the* が付くことで、上の *an English class* と結びつきます。Likewise, because of the presence of *the*, the word *topic* is connected to this English class.

topic という単語に *the* が付いていることで、この授業のトピックであるという結びつきが明確にされています。

The other occurrences of *the* function the same way in this passage. Because of the presence of *the*, the word *textbook* is connected to this English class, and so are the words *professor* and *students*.

the が付いていることによって、*textbook* という単語も、*professor* も *students* も、それぞれみな、この passage で話題となっている英語のクラスに関するものであるということが、はっきりと示されているわけです。

You might think that you can comprehend an English passage if you simply understand the meaning of content words such as *textbook*, *professor*, *students*, and so on.

皆さんの中には、こうした内容語の意味さえ分かれば英語は読めると思っている人もいるかもしれませんね。

However, articles such as *the* also play a significant role in English sentences. Sometimes, they are even more important than other words as sentence connectors.

場合によっては、*the* にきちんと注目しなければ、英語を正しく読み取れないかもしれません。

So it is a very good idea to pay close attention to the article *the* when you read English passages.

[Jang san and Jeff on the scene, together with a stuffed gorilla, a stuffed rabbit, and a carrot]

Jang: Hi Jeff.

Jeff: What's wrong?

Jang san: I have a problem. I possess a gorilla, a rabbit, and a carrot, and I have to bring them to the other side of the river, but my boat is too small and I can put only one of them with me on the boat at one time.

Jeff [a bit puzzled]: So ... what is the problem?

Jang: Well, the rabbit will eat the carrot if they are alone and I am not with them. I want to keep the carrot for my dinner. And the gorilla will tease, and even hurt, the rabbit if they are alone and I am not with them. I don't want my rabbit to get hurt.

Jeff: So the question is how you can move all of your possessions to the other side of the river without the carrot and the rabbit being damaged, right?

Jang san: Yes!

English Puzzle: 全てを無事に反対岸まで運ぶには?

Jang san は自分の所有物、ウサギ1匹、ゴリラ1頭、人参1本をボートに乗せて、反対側の川岸に運ばなければなりません。しかし、以下の条件があります。

[Conditions]

- only one item with Jang san on the boat at a time
- the rabbit and the carrot cannot be left alone
- the gorilla and the rabbit cannot be left alone

さあ、ボートには Jang san の他、一度に1つしか乗せられません。ウサギと人参を置いていくと、ウサギが人参を食べてしまいます。ゴリラとウサギを置いていくと、ゴリラはウサギを傷つけてしまいます。Jang san はどうやったら、所有物3つを無事に川の反対側まで運べるでしょうか？

Stop the video now, and try to solve this puzzle. Write your answer in English.

Solution: 解答編

How are you doing? Well, I'm going to show you a solution, but as a set of worm-eaten sentences. Try to fill in the blanks.

それでは解決法の1つを紹介しましょう。虫食い文で示しますので、適切な英単語を入れてください。



Come on Jang san! You are almost there!

[Worm-Eaten Sentences]

First, Jang san brings ____ rabbit to the other side of the river. Next, Jang san brings ____ gorilla to the other side of the river, and brings ____ rabbit back to the original side of the river. Then, Jang san puts ____ rabbit on the shore and brings ____ carrot to the other side of the river.

Finally, Jang san brings ____ rabbit to the other side of the river again, and mission completed!

So have you enjoyed the puzzle? Now, what did you put in these blanks?

これでミッション無事完了です。さて、みなさんは、下線部に何を入れましたか？

正解は全て the です。

What if we do not use *the* properly? The を適切に使わないと？

Now, in a typical gap-filler question, you might imagine something like this.

通常の穴埋め問題は、下のようなものかもしれません。

[Worm-Eaten Sentences]

First, Jang san brings the ____ to the other side of the river. Next, Jang san brings the ____ to the other side of the river, and brings the ____ back to the original side of the river. Then, Jang san puts the ____ on the shore and brings the ____ to the other side. Finally, Jang san brings the ____ to the other side of the river again, and mission completed!

しかし、実際には、冠詞に注意を向けることもとても重要なのです。皆さんの中にはつぎのように書いた人はいませんか？

Some of you might have written something like the following.

[Worm-Eaten Sentences: common mistake]

First, Jang san brings a rabbit to the other side of the river. Next, Jang san brings a gorilla to the other side of the river, and brings a rabbit back to the original side of the river. Then, Jang san puts a rabbit on the shore and brings a carrot to the other side. Finally, Jang san brings a rabbit to the other side of the river again, and mission completed!

This is one of the typical mistakes occasionally made by Japanese students.

これでは今話題になっているウサギだけではなく、新しいウサギがどんどん出てきてしまいます。

It may turn out that you have four different rabbits by the end of the story.

Ok, let us wrap up.

Wrap Up まとめ

Today, we have learned some of the important functions of the English definite article *the*. Just like Japanese *wa* or *ga*, *the* in English is an important sentence connector. It sometimes marks a word as the topic of the sentence. And *the* clearly indicates that the word with *the* connects to other expressions presented within the same passage. Pay careful attention to the definite article *the*. Then your understanding of English sentences will be much more accurate.

冠詞の *the* に注意を払いながら読むと、英文の意味をより正確に理解できます。そして、書いたり話したりするときにも、自然な英語が出てくるようになるでしょう。

This will also help you with writing and speaking English in a clear fashion.

[Jeff, Jang san, and Satoshi on the scene]

[Jang san holding the stuffed rabbit and the carrot; Satoshi holding the stuffed gorilla, the gorilla teasing the rabbit]

Well, that's all for today. Good luck, keep up the good work, and see you next time.

=====

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(5)

定冠詞 *the* のあるなしが大きな違いに

「*the* のあるなしが、そんなに重要ですか」という質問をときどき受けます。場合によっては、相当に重要になります。特に、会話では、不自然な使い方があっても聞き手が補ったり修正したりして理解してくれることもあります。書いた場合には、とても不自然なまま理解されてしまいます。次の例を考えてみましょう。

[例 1]

高校の時ホームステイをしたオーストラリアのホストファミリーに同じ年の子 A くんがいました。なんと、今年の夏に、札幌駅でその子に偶然会いました。

A くん : Hi, Tomo! What a surprise!

あなた : Hey! Is it you? What a surprise! What brings you here?

A くん : I'm now traveling around Japan during summer. What do you do now?

あなた : I'm **the** college student. (I'm **a** college student.)

「大学生です」「大学に通っています」と言いたい文脈で、**the** は大変不自然ですね。a college student というべきでしょう。I'm studying at a university などでもよい。この文脈で **the college student** といきなり言うと、「大学生らしい本当の大学生は自分だ」というような意味に誤解されてしまうかもしれません。

[例 2]

オリンピックの競泳で、「高速水着」が問題になっていたことがありました。認めるべきか、禁止かなど。そのような騒ぎの中、選手たちは、勝負は水着ではなく、自分たちの泳力と技術できまるのだ、という思いも強くあったようです。北島選手がその時、以下のような英文が書いている T シャツを着ていました。

I am the swimmer.

ここは **the** が重要な役割を果たしていますね。「泳ぐのは俺だ（水着じゃない）」というメッセージでしょう。この場合は **a swimmer** としては、ニュアンスが全く伝わりません。

たかが冠詞ですが、重要な意味機能を担っているのです。Reading の時に（難しい単語がないからと言って、雰囲気だけで理解してしまわずに）、「ここに **the** が付いているのはなぜだろう」「なぜここには冠詞が何も付いていないのだろう」など、丁寧に確認しながら読む練習を続けると、書き手の意図を正確に理解できるだけでなく、自分で話したり書いたりするときにも大いに役に立つでしょう。

Unit 4 Working with Chunks

Jay (J): Hello, everyone. I am Jay Tanaka. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”. In this unit, we will learn that “word chunks” are very important to understand English sentences, especially when sentences are long.

Satoshi (S): みなさんこんにちは。奥聡です。このユニットでは、「かたまり」で考えることが、長い英文を理解する上で重要であることを学びます。

Jay: Let us start by looking at the following sentence in Japanese.

Looking for a Chunk: かたまりを探せ

- (1) 太郎が食べたのはその机 ...

Wait, Satoshi. Did he eat a desk?

ジェイ、慌てないで。最後まで見てみると...

- (1) 太郎が食べたのは[その机の上にあった人参]です

Oh, I see. Yes, it is important to look at the sentence as a whole, not just a part of it.

そうですね。この場合は[その机の上にあった人参]というチャンク、つまり、かたまりで考えることが重要です。

True. The same applies in English. If you look at only a part of an English sentence;

- (2) ... John are going to visit us.
(3) ... I are interested in this project.

something may look very strange: “John are going to visit us”?? “I are interested in this project”?? But if you look at the relevant chunk, the sentences make sense:

- (2) [Mary and John] are going to visit us.
(3) [My sister and I] are interested in this project.

This simple observation suggests that human language works as a unit, or a word chunk, and that it is important to not just look at words next to each other.

言語は単に、隣り合っている単語同士の関係を見ているだけではなく、大きな塊の単位で見ていくことが大事だということがわかります。

Bearing this in mind, let us consider how to make yes/no questions in English. Look at the following examples.

[How to make a Yes/No question?]

John is very nice.

They can play tennis.

You are busy.

It looks very easy to make a yes/no question out of these sentences.

イエス・ノー疑問文を作ってみるとどうなりますか？

John **is** very nice. → **Is** John nice?

They **can** play tennis. → **Can** they play tennis?

You **are** busy. → **Are** you busy?

Now, it may seem that you just exchanged the positions of the first and the second words, but it turns out what is really happening is not that simple. For instance, if you try to make a yes/no question sentence out of “The woman with a tennis racket is nice,” you really have to take the relevant chunk into consideration, right?

[The woman with a tennis racket] **is** nice. → **Is** [the woman with a tennis racket] nice?

単に最初の単語と 2 番目の単語を入れ替える、という単純な操作をしているわけではありませんね。

How about the next one?

The woman who is playing tennis on the lawn is nice.

So, how to make a yes/no question out of this?

これを Yes/no 疑問文にするにはどうしますか？ 最初の is に惑わされてはいけませんね。

Yes. You have to say “Is the woman who is playing tennis on the lawn nice?” The subject is a big chunk in this case, and thus the “second” *is* moves to the front.

[The woman who is playing tennis on the lawn] **is** nice.

→ **Is** [the woman who is playing tennis on the lawn] nice?

ここでも主語が複数の単語からなる大きな塊になっていることを見抜くことが重要なポイントとなります。

Satoshi: Hi, Jay, what are you thinking about?

Jay: Well, students of mine say college English texts are a lot more difficult than high school English.

Satoshi: For example?

Jay: Students complain that sentences are long, and their structures are complex.

Satoshi: OK. So let's see if considering chunks may help. [a chunk]

塊を意識してみましょう。

Long and Complex? What if you look for a Chunk?: 長くて複雑? でも、かたまりを探せば ...

You may have something like this in your junior high school English textbook:

“Ken is now visiting Nemuro.”

In a college level textbook, however, you may have something like this.

Ken Yamada, 47, a professor of marine biology at Hokkaido University,
is now visiting Nemuro, the eastern edge of Hokkaido, where you can observe
a substantial number of wild animals.

It may look complex at first glance, but if you focus on word chunks, or structural units, the sentence turns out to be not that complicated.

一見複雑そうですが、かたまりに注目してみましょう。

The basic frame is just “Ken Yamada ... is now visiting Nemuro”, which may appear in any junior high school textbook.

文の骨格は、中学レベルの英語ですね。

Now, there are four chunks in this instance, which provide additional information to the basic frame. The first two chunks, “47,” and “a professor of marine biology at Hokkaido University,” are appositive phrases to the subject *Ken Yamada*.

山田健さんが、47 才で、北大の生物学の教授である、という情報を同格表現で付け加えています。

The other two chunks are [the eastern edge of Hokkaido], and [where you can observe a substantial number of wild animals], which are also appositive phrases to *Nemuro*, explaining the character of this place.

この 2 つも同格表現として、根室がどのような所なのか、その情報を付け足しています。

So, if you identify the relevant chunks, or structural units, you may find that the entire sentence structure is not very complex.

かたまりとその役割さえ読み取れば、実際は見かけほど複雑ではないことがわかりますね。

So, when you try to read English sentences, especially when they are long and look complex, it is very important to try to identify chunks, or structural units, because a sentence is not just a linear sequence of words.

文は、単語がただ横一列に並んでいるわけではありません。構造を持ったかたまりになっているのです。そのかたまりを見つけて、紐解いていくことが、長い文を読む際の近道でしょう。

OK?

So finally, let us give you another tip for reading college level English.

Difficult Words may not be Difficult: 「難しい」単語は難しくないかも

Look at the following examples.

山田教授が根室近海の海洋生物について述べています。

Killer whales are carnivorous, meaning that they eat meat.

Hair crabs are omnivorous; they eat both meat and plant life.

Sea urchins are herbivorous, which means that they eat only plant life.

You may not know the words “carnivorous”, “omnivorous”, and “herbivorous”, and find them difficult.

この3つの単語、難しそうですね。でも、辞書を引く前に、全体をよく見てください。

Yes. You can see that the meanings of these words are already given here; that is, the chunks following these words function as definitions.

特に大学レベルの文章で、馴染みのない固有名詞や難しい概念や表現が出てくると、その前後に説明が添えられていることがしばしばあります。

When you see unfamiliar proper names, or difficult concepts or terms, it is likely that the author provides the definition and/or explanation of such words in the text. So it is quite often the case that difficult words are not actually difficult by themselves.

OK, let us wrap up.

Wrap Up まとめ

Today, we learned that a sentence is not just a linear sequence of words like beads on a string. Rather, a sentence consists of several units or chunks. Hence, identifying the relevant word chunks is very important when you read English sentences.

特に長い英文を読む時は、単語のまとまりをしっかりと意識することが重要となります。

Jay: Satoshi, is the woman who is playing tennis nice?

Satoshi: I have no idea.

[Tomo walks behind Jay and Satoshi]

Tomo: Oh, you can have it. [Gives the carrot to Jay]

Jay: Thank you ...

Tomo: Have a good day. [walks away]

Jay: She is nice!

Satoshi: Yes!

Jay: Well, how do you like today's lesson? That's all for today. Good luck, keep working hard, and see you next time.

=====

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(6)

かたまり (chunk) で考えることの重要性

次の日本語文で、次郎は「褒めた人」ですかそれとも「褒められた人」ですか。

太郎は 次郎と 花子を褒めた

2通りの可能性がありますね。1つは、「次郎と花子を」をひとかたまりととらえて、その二人が褒められた人（太郎が褒めた人）という解釈です。実際にこの意味のつもりで丁寧に読むときは、「太郎は」の後にちょっと間を入れて、「次郎と花子を」を一気にひとまとめで読むかもしれません。

もう1つの解釈は、太郎は次郎と（一緒になって）、花子を褒めた、つまり、次郎は褒めた人である、という解釈です。ここでは、「花子を褒めた」がひとかたまりになっていて、その褒め方として「次郎と（一緒になって）」という様子の表現をつけ加えているわけです。重要なポイントは、「次郎と花子」というかたまりでは解釈していないわけですね。この意味のつもりで丁寧に読むときは、「太郎は次郎と」を一気に読んで、ちょっと間を入れてから「花子を褒めた」と読むかもしれません。

母語である日本語の場合、無意識のうちに、このようなかたまりの作り方の違いによって、意味を使い分けているわけです。このUnitで見たように、英語でも、単語の意味をただ「横並びで」理解するのではなく、どこがどのように「かたまりになっているか」をしっかりと意識することが重要です。では、クイズです。次の英文、望遠鏡（a telescope）を持っているのは、Maryですか、それとも a boy ですか。

Mary saw a boy with a telescope.

これも[a boy with a telescope]というかたまりで理解する場合は、望遠鏡を持っているのは男の子です。そのような男の子を Mary は見た、という意味ですね。実際にこの意味のつもりで丁寧に読むときは、[a boy with a telescope]をかたまりとして、続けて一気に読むでしょう。一方、[saw a boy]を先にかたまりとして理解すると、「望遠鏡を持った男の子」という意味にはなりませんね。「男の子を見た」です。そして、[with a telescope]は、「望遠鏡で」という副詞句として、Mary が男の子を見た、その「方法」を表していると解釈されます。つまり、この解釈の場合、望遠鏡をもっているのは主語の Mary ということになります。この意味で丁寧に発音しようとする場合は、[a boy]と[with a telescope]がかたまりになっているわけではないということを示すために、[with a telescope]の前に、ちょっと間を入れるかもしれません。

英語でも日本語でも、文脈との整合性を考えながら、意味のかたまりを意識しながら読んでいくということが、とても重要であり、書き手が伝えたいことを正確に理解する上で、大変重要になってくるということが分かります。（文脈情報を考慮せず、かたまりも意識せず、ただ単語1つ1つのいみだけを闇雲につなぎ合わせる、という方法ではうまくいかないことがよくわかるでしょう）

Unit 5 Hypothetically Speaking

Peter (P) : Hello, everyone. I am Peter Richardson. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”. In this unit, we will consider a very interesting property of human language: hypothetical expressions. Hello, Satoshi.

Satoshi (S) : Hi Peter. みなさんこんにちは。奥聡です。「仮定法」という表現方法を聞いたことがありますね。今日はそれについて少し考えてみましょう。

P: Some of you might say, “Oh, no. I don’t like grammar”, but don’t worry. It is something about human language, and thus something about us. There is no man standing next to me.

Suppose that you are going to describe this situation.
You may be able to draw a picture of this situation.
Or you can use your language, either Japanese,

テーブルの上にピザがあります

or English.

There is a pizza on the table.

この状況を絵で描くこともできますし、日本語でも、英語でも表すことができますね。
It is very easy, right? Now, how about the next situation?
How do you describe this situation by drawing a picture?

There would be various ways to do so.
Interestingly, however, there is something
which you can express with your language very easily
but which is very difficult to express by drawing a picture.
ことばでは簡単に表すことができますが、絵でそれを描くのは
難しいことがあります。たとえば、ことばでなら、

机の上に人参はありません

とこの状況を述べるすることができます。同じ情報を絵で描いて伝えるのは相当に難しいでしょう。
Likewise, in English, you can say:

There is no carrot on the desk.

to describe this situation, but it is very difficult to express this information by drawing a picture. As we have



just seen, we human beings can talk very freely about something which is not here or which is not happening right now.

人間は、言語を使うことによって、今ここにないもの、今ここで起こっていないことを自由に語ることができるのです。

More than “right here” and “right now” 人間言語の表現力

This is a very important property of human language.

Let us look at a few more examples. You can describe the situation which is happening right in front of you, either by drawing a picture or by using your language:



Jeff is reading a very difficult book now.

now

But it would be extremely difficult (if not impossible) to draw a picture of the past event. By using language, however, it is very easy to describe the past event.



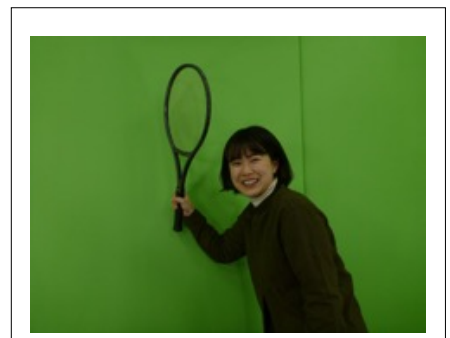
Jeff was reading a very difficult book last month.

last month

過去に起こった出来事でもことばを使えば簡単に表現できますね。

Similarly, you can describe the situation which is happening right now, either by drawing a picture or by using your language:

Tomo is playing tennis now.

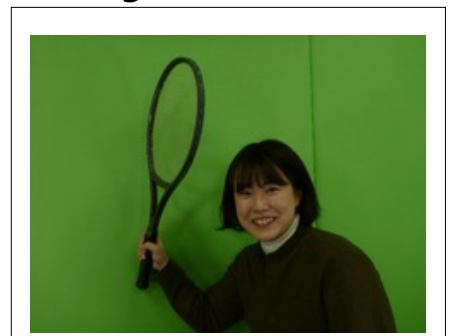


right now

But it would be extremely difficult again to draw a picture of a future event. Using language, however, it is very easy to describe a future event:

Tomo is going to play tennis next Sunday.

未来の予定についても、ことばを使えば簡単に表現できますね。



next Sunday

Pochi (a stuffed doggie): [off screen] Bow wow!

Peter: Ah, Pochi, Pochi. come here, come here!

[The stuffed puppy appears happily]

Peter: Come here. Ah, good boy, good boy. OK. [Peter throws the tennis ball]. Fetch!

[Pochi gets the ball and brings it back to Peter]

Peter: [Petting the puppy] Well, if you keep a dog, you may say, “my dog understands my language.”

It is true to some extent, but actually it is generally limited to “right now, right here” situations.

For instance, if you say to your dog;

We could have walked to the botanical park yesterday if it had not been raining.

your dog would simply look puzzled.

[Pochi looks really puzzled]

雨が降っていなかったら、昨日植物園に行けたのにね。

Human children, even five or six, however, easily understand this hypothetical sentence.

人間の子どもであれば、5～6才にもなれば、このような仮定の話をちゃんと理解することができます。「今」「この場所で」以外のことを自由に話せるのが、人間言語の大きな特徴なのです。

Let us quickly look at one famous example of animal communication.

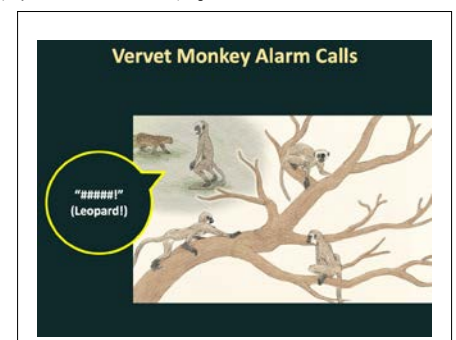
動物のコミュニケーションの有名な例を1つ見てみましょう。

Comparison with “monkey” language サルのコミュニケーションと比較すると

ヴェルベットモンキーは、危険の種類によって、異なる警戒音を発し、仲間に知らせます。

Vervet monkeys have different alarm calls depending on the type of their natural enemy. If one of them finds a leopard, for instance, the monkey gives a specific call and other monkeys climb up into the trees.

豹を知らせる声を出すと、仲間のサルはそれを聞いてみな木に登ります。



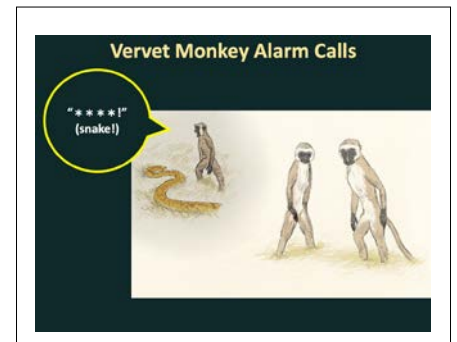
If one of the vervet monkeys finds a hawk, on the other hand, the monkey gives another specific call and other monkeys crouch on the ground looking up, or run under big trees.

また、一匹が、鷹を知らせる警戒音を出すと、仲間はそれを聞いて地面に座り込み上を見上げるか、木の下に逃げ出します。



Or if one of them finds a snake, the monkey gives still another specific call and other monkeys stand on their feet looking down into the bush.

また、一匹が、へびを知らせる声を出すと、仲間はそれを聞いて立ち上がり、茂みの中を見回します。



As you can see, the vervet monkey's communication system is well-designed for their survival, but

restricted to “right now” and “right here” situations. Given this, it is now self-evident that learning sentences which state hypothetical situations is very important when you learn a foreign language.

このように見てくると、仮定の状況を表現する文を学ぶことは、外国語学習においてとても重要であることがわかります。

So, finally let us consider a couple of important structures to talk about hypothetical situations in English.

Subjunctive Past (仮定法過去)「もし今、～なら ...」

When you talk about current hypothetical situations, you use “subjunctive past” structure.

現在の事実と反する仮定を表す場合は、「仮定法過去」という構造を使います。

If I **had** a lot of money, I **would** buy a new laptop.

もしお金をたくさん持っていたら、ノートパソコンを買うのになあ～

As the verb in the *if*-clause, you have the past form *had*.

日本語も似ていますね、「もしお金をたくさん持っていたら」と過去形を使って、現在の事実とは異なる状況を述べています。

And the main clause usually has a past form auxiliary verb such as *would*, *could*, and so on. Here are a few more examples of this type.

If we **had** no exam, we **could** eat out together.

もし試験がなかったら、一緒に食事に行けるのに。

If they **agreed** with me, I **would** revise the plan.

もし彼らが同意してくれたら、その計画を修正するのだが。

となりますね。実際とは異なる状況を語っているわけです。さらに、日本語でも「もし」という言葉を使わなくても仮定を表すことができるのと同様に、英語でも必ず “If” が出てくるわけではありません。

Note that you do not have to have the word *If* even when you talk about a hypothetical situation. Look at the following examples.

To hear Phil speak Japanese, you **would** take him for a Japanese person.

(= If you hear Phil speak Japanese),

ここでは、If という単語は出てきませんが、「フィルが日本語を話すのを聞いたら」と仮定の話をしていると理解できますね。

Likewise, ...

With your support, they **should** finish it in time.

(= If they had your support),

ここでも If は出てきませんが、あなたのサポートがあれば、間に合わせることができるのだが、と仮定の話をしています。

Subjunctive Past Perfect (仮定法過去完了)「もしあの時、～だったなら ...」

Let us look at the second type of structure to talk about hypothetical situations. When you talk about hypothetical situations in the past, you use “subjunctive past perfect” structure.

過去の事実とは異なる仮定の話をする場合は、仮定法過去完了という構造を使うのが一般的です。

If I **had had** a lot of money, I **would have bought** a new laptop.

もし（あの時）お金をたくさん持っていたら、ノートパソコンを買っていただろうに。

In this case, you use a past perfect form in the *if* clause, and a past form auxiliary verb plus a present perfect form in the main clause.

この場合、If 節には過去完了形を用い、主節は過去形助動詞プラス現在完了、という形になるのが標準的です。

And also in this type, we do not have to have the word *If* in some cases.

この場合も、If という単語が表に出て¹こないことがあります。

But for your support, they **would not have finished** it in time.

(= If they had not had your support),

(あの時)あなたのサポートがなかったら、彼らが期限までに終えることはなかったでしょう

Or ...

Had it not been for Jeff's assistance, we **could not have completed** that slide.

(= If we had not had Jeff's assistance),

ジェフが(あの時)手伝ってくれなかったら、

あのスライドを完成させることはできなかったでしょう。

¹ 注：この **but for** を用いた仮定法の表現は、少し古い文献には出てくるがあるので、知っておくと良いでしょう。ただし、近年ではほとんど使われなくなってきましたので、自分で書いたり話したりする場合は、次の表現を使うとよいでしょう。

Notice that there is no “If” word in these examples, but we are surely talking about hypothetical situations in the past.

If という単語は表に出てきていませんが、

過去の事実とは異なる、仮定の状況を話していると理解できますね。

Very complicated? Yes, to some extent, but remember that human language texts are very rich and sophisticated partly because we can talk a lot about something not here and not now. Therefore, if you learn how to read or how to talk about hypothetical situations accurately in English, your English skills, either reading, listening, speaking, or writing, will substantially improve.

OK? Finally, here is a quick quiz for you.

では最後にクイズです。

[Quiz: Unit 5]

Shall we go to eat some pizza or something?

A friend of yours suggests that you eat out together with her, but you are too busy.

How would you tell her that you cannot come, in a polite way with a simple phrase?

食事に誘われましたが、忙しくて行けません。

一言で、そして丁寧に、断るにはなんと言いますか？

[Quiz: Unit 5 の解答例は[Wrap up]のページの一番下に]

This is a very polite and considerate way of turning down the invitation, using a subjunctive structure!

誘ってくれた相手の気持ちを気遣ったとても丁寧な断り方ですね。そして、仮定法を使っています！

OK? Let us wrap up.

Wrap Up まとめ

We talk a lot about something which does not exist here, or which is not happening now.

日本語でも、「いま」「ここ」にないもの、実際には存在しない状況をたくさん話しますね。

And when you read any English texts, you will find tons of sentences which are not about now and here.

そして、英語のテキストを読めば、「いま」「ここで」以外のことがたくさん書かれています。

Something about past events, something about future plans, and something about hypothetical situations!

私たちはベルベットモンキーではないので、現実にはない状況を自由に語ることができます。英語での言い方も、基本的な形をしっかり意識すれば、必ず覚えられますでしょう。

Peter: Well, how do you like today's lecture? We can talk a lot about something which is not here in English.

For instance, I can say “there is no gorilla next to me.”

[Peter notices the gorilla, surprised a bit]

Well, that's all for today. Good luck, keep working hard, and see you next time!

[Looking at the gorilla again and whispers “Where did he come from... ?”]

[Quiz: Unit 5 の解答例はこのページの一番下に]²

² I wish I could. 「行けたらいいんだけど...」

Unit 6 Structures Signify

Reggy (R): Hello, everyone. I am Reggy Figer. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”. In this unit, we will learn that structure change plays an important role in English.

Satoshi (S) : みなさんこんにちは。奥聡です。日本語では、「てにをは」が重要な役割を果たしますね。このユニットでは、英語では同じような機能を、構造を変化させることで行っている、ということを学びます。

R: If you learn this characteristic property of English, you will find it not difficult to read English texts with long sentences. Let us first look at the following Japanese sentences.

太郎は来ます	太郎は来ます <u>か</u> ?
倫子は忙しい	倫子は忙しい <u>の</u> ?


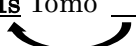
It is clear here that in Japanese, you add a sentence final particle “ka” or “no” to make a yes/no question.

日本語では、疑問文を作る際、文末助詞の「か」や「の」をつけますね。

How about English then? To make a yes/no question out of “John will come,” or “Tomo is busy,” we do not add any particles like Japanese;

英語で疑問文を作るときは、日本語の「か」や「の」に相当する要素を何か付け加えるわけではありません。

Rather, we just change the structure: in this case, we move the auxiliary verb *will* or the *be*-verb *is* to the front of the subject.

<u>Will</u> John _____ come?

<u>Is</u> Tomo _____ busy?"


Very easy, isn't it? Then, let us consider the following examples.

A: 倫子は忙しいです
B: 私 <u>も</u> です
A: 札幌は観光客に人気があります
B: 小樽 <u>も</u> です

“mo” here plays an important role, signifying that the same condition applies to *me*, or to *Otaru*.

「も」はここで、同じことが「私」にも当てはまる、あるいは「小樽」にも当てはまる、ということを表す重要な働きをしています。

Now, how to express the same ideas in English? You can say:

I am busy, too.
I am also busy.

where the words *too* and *also* function in the same fashion as Japanese “mo”. Likewise, you can say “Otaru is

popular among tourists as well”, using *as well* to express this additive meaning. Now, here is a quiz. How to express the same ideas by starting the sentence with the word *so* in English? Fill in the blanks and complete the sentences.

さあクイズです。同じことを、*So* で始まる文で表すとどうなりますか。下線を埋めて、文を完成させてください。also や too は使わない、というのがヒントです。

[Quiz]

A: 倫子は忙しい

A: Tomo is busy.

B: 私もです

B: So _____.

A: 札幌は観光客に人気があります

A: Sapporo is popular among tourists.

B: 小樽もです

B: So _____.

A: Tomo is busy.

B: “So am I”

A: “Sapporo is popular among tourists”

B: “So is Otaru”

Notice that something very interesting is happening here in English.

とても面白いことが起こっていますね。also も too もないのに「も」の意味が出てきます。どこから出てくるのでしょうか？

Where can we get this implicit “also” in these (B) sentences? Yes, the change of the structure induces the implicit “also” meaning here. Together with the sentence initial *so*, the change of the structure, specifically the subject auxiliary inversion induces the implicit “also” meaning.

ここでの *So* は前の文の *busy* を指しています。そして、*I* と *am* が入れ替わることによって、「私も」の「も」という意味が出てくるのです。同じように、2 つ目の会話文の *So* は *popular among tourists* の繰り返しを避ける代用表現です。そして、*Otaru* と *is* が入れ替わることによって、「小樽も」の「も」という意味が出てくるのです。

Very interesting, isn't it? So let us practice a little.

Complete the conversations by filling in the words after *So*.

So の後ろを埋めて対話文を完成させてください。

[Practice]

(1) a. Galileo is a great scientist.

b. So _____. (← ‘Newton also’)

(2) a. John can play chess.

b. So _____. (← ‘I also’)

(3) a. Mary will leave.

b. So _____. (← ‘Susan also’) [正解例は次ページの下に]

The subject auxiliary inversion is involved to induce the ‘also’ meaning. Easy? Then, how about the following?

これはちょっと難しいですか？

[Practice]

- (4) a. They enjoyed the party.
b. So _____. (← ‘Sally also’)
- (5) a. This house looks good.
b. So _____. (← ‘that one also’)
- (6) a. She likes apples.
b. So _____. (← ‘I also’) [正解例は次ページの下に]

Remember when we need the subject auxiliary inversion but we do not have an appropriate auxiliary verb or *be* verb, we use the dummy *do* in English.

主語と助動詞や *be* 動詞を入れ替える必要があり、かつ、適切な助動詞や *be* 動詞がない時は、どうしますか？

John will come. → Will John ____ come?
Tomo plays tennis. → ??

はい。ダミー *do* を使いますね。(Does Tomo play tennis?) 同じことが、(4)(5)(6)の例文で起こっています。

The same rule applies in examples (4)(5)(6). We use the dummy *do* when there is no appropriate auxiliary verb or *be* verb. [Practice (1)(2)(3)の正解例はこのページの下に]³

OK? Let us summarize so far.

Japanese vs English 構造の使い方の違い

In Japanese, sentence final particles such as “ka” or “no” signify that the sentence is interrogative.

日本語では、文末の「～か」や「～の」で、疑問文であることを示します。

In English, on the other hand, the change of structure, specifically subject-auxiliary inversion, signifies that the sentence is a question.

一方、英語では、主語と助動詞を入れ替えることで、その文が疑問文であることを示します。日本語のように何か新しい単語を加えるわけではありません。

Likewise, in Japanese, the particle “mo” conveys the “also” meaning.

日本語では、助詞「も」をつけることで *also* の意味を表しますが、...

In English, in addition to additive meaning words such as *also* or *too*, the change of structure can induce the relevant ‘also’ meaning as well.

英語では、*also* や *too* という単語を使う方法の他に、*So* のうしろで、主語助動詞倒置をすることによって、「なになにも」の意味を表すことができるのです。

³ (1b) So is Newton. (2b) So can I. (3b) So will Susan.

You find instances of this structure a lot in daily conversations, as well as in many written texts in English.

Japanese = particle dependent language

English = structure dependent language

So, by getting used to the subject-auxiliary inversion, you find that reading long sentences in English is not as difficult and complicated as you might imagine.

[Jang-san looking at a mirror and trying to choose which hat to wear.]

Reggy: Oh, hi, Jang san, what are you doing? You are looking into the mirror seriously.

Jang san: Hi, Reggy. Ah, well, I wonder which hat suits me.

Reggy: Jang san. You are very handsome, and so you will look cool with no hat!

[Jang san looks a little puzzled]

He will look cool with no hat.

ここはちょっと注意が必要です。実はこの文、2つの真逆の解釈が可能なのです。

This sentence may mean: **He will look cool without wearing any hat.**

つまり、「帽子をかぶらなくてもカッコいいよ」という意味があります。否定の *no* の意味が *with phrase* の中に留まっている解釈です。

Here, the negative meaning of *no* stays within the *with*-phrase.

In contrast, the same sentence may mean that **he will not look cool with any hat.**

Here the negative meaning of *no* scopes over the whole sentence.

2つ目は、「どんな帽子をかぶってもカッコよくない」という意味です。否定の *no* が文全体にかかっている解釈です。

[Practice (4)(5)(6)の正解例はこのページの下に]⁴

Now, there is one way to disambiguate this sentence, just by changing the structure.

1つの文なのに、2つの真逆の意味になりうるのは、誤解のもとになるかもしれません。しかし英語には、語順を変えるだけで、1つの意味に絞る方法があります。

Don't worry. There is a way to eliminate this ambiguity. Putting the negation phrase at the beginning of the sentence, together with the subject auxiliary inversion, we get:

With no hat **will** he ____ look cool.



This is called a negative inversion

否定表現を文頭に出して、主語助動詞倒置が起こっています。これは否定倒置構文と呼ばれます。

And this sentence only means that he will not look cool with any hat.

⁴ (4b) So did Sally. (5b) So does that one. (6b) So do I.

そして、この文は「彼は、どんな帽子をかぶってもカッコよくない」という意味だけになります。

You can make it clear what you would like to say by using the relevant change of structure.

日本語なら「てにをは」や別の単語を加えて内容を明確にするところを、英語では使っている単語は変えずに構造を少し変えることによって行っているわけです。

Let us look at a few more examples of negative inversion in English.

具体例をもう少し見てみましょう。

With no job **is** John ____ happy.

どんな仕事にもジョンは満足しない

At no time **will** Bill ____ relax.

どんな時でもビルはリラックスしない

Never **has** Jim ____ tried anything new. 一度もジムは新しいことに挑戦したことがない

Notice that all involve the subject auxiliary inversion. Now, here is another quick quiz.

ではちょっと応用問題です

[Quiz]

(1) They said nothing.

➔ Nothing _____.

(2) She looks good with no glasses.

➔ With no glasses _____.

Fill in words in the blanks to complete the sentences.

下線部を埋めて、否定表現を文頭に動かしたパターンを完成させてください。

We have to do the subject auxiliary inversion but there seems to be no appropriate auxiliary verb or *be* verb.

主語助動詞倒置をしたいところですが、適当な助動詞や *be* 動詞が見えませんか。このような場合、どうするのでしょうか？

Yes! We use the dummy *do*!

はい。ダミー-do を使うのでしたね。

Nothing **did** they say. With no glasses **does** she look good.

[Reggy is trying to arrange pieces of furniture on a room outline sheet]

Oh, hi. Here is an outline of a room. I am going to put pieces of furniture. And I'd like you to try to place these pieces of furniture as I do.

[Quiz]

英文の指示にしたがって、それぞれの家具を配置してみてください

As you enter the room, straight ahead you see a large sofa. On the wall behind the sofa, a picture of flowers is hung. On the right of the



sofa there is a small round table.

A bed is to the right of the table along the wall.

Next to the bed is a dresser with a mirror on top.

Opposite the bed, there is a small bookshelf with a few books.

Cohesion 自然な流れを作る構造変異

How is it?

You may put the furniture something like this.

Now look at the text again.

ここでもう一度テキスト見てみましょう。

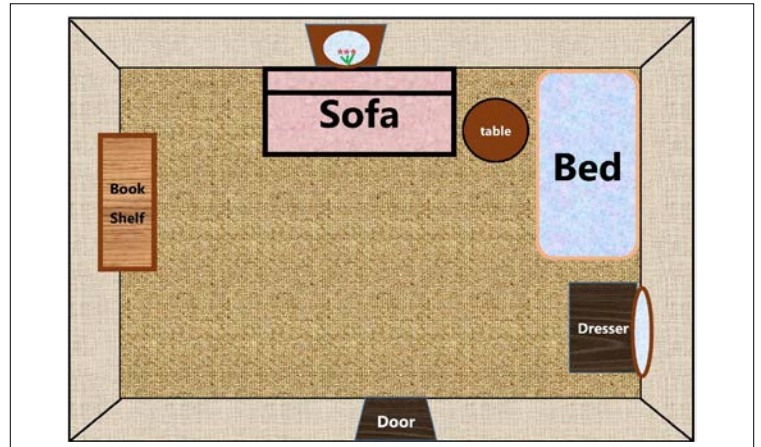
実はここでも語順を工夫することで、
伝わりやすい文章の流れになっています。

As you enter the room, straight ahead you see
a large sofa. On the wall behind the sofa,
a picture of flowers is hung. On the right of the
sofa there is a small round table.

A bed is to the right of the table along the wall.

Next to the bed is a dresser with a mirror on top.

Opposite the bed, there is a small bookshelf with a few books.



For instance,

you may say “a picture of flowers is hung
on the wall behind the sofa” instead.

And this is actually the canonical word order of English.

こちらの方が、主語＋述語の順で、基本的な英語の語順になるはずですね。ではなぜ、2行目はこのような語順なののでしょうか。

Why is the second line this order? The key is cohesion.

ポイントは、前の文からのつながりの分かりやすさです。

The first sentence gives you the location of the large sofa. Using the location of the sofa as a reference point, you introduce the location of a new object: a picture of flowers.

すでに分かっているソファの位置を足掛かりにして、新しいもの、ここではお花の絵の位置を導入しているので

す。

Likewise, you might have said “there is a small round table on the right of the sofa.”

こちらもこのよう言えば、通常の語順ですね。

Again, however, the text word order is natural in terms of the information flow. Using the already-known location of the sofa as a reference point, the location of a new object, a small round table, is introduced.

すでに分かっているソファの位置を先に述べて、それを足掛かりとして、丸テーブルの位置という新しい情報を加えていく、という書き方になっています。

Finally, using the location of the bed as a reference point, the location of the new object, a dresser, is introduced.

すでに分かっているベッドの位置を起点として、ドレッサーの位置を新しい情報として導入しているのです。

As you may have noticed, using non-canonical word order makes the flow of information natural and easy to understand.

基本語順とは異なる構造を利用することによって、つながりのよい自然な文の流れとなっているわけです。

OK. Let us wrap up.

Wrap Up まとめ

As we have seen in today's lecture, Japanese use particles a lot to signify meaning and functions of sentences and words. English, on the other hand, relies more on structures.

倒置などが出てくると、どこが主語でどこが述語かわからなくなって、めんどうだなあと思っている英語学習者も少なくないかもしれません。「何のために倒置なんてするの？」という声が聞こえてきそうです。

Some of you may complain “Why on earth are there inversions in English at all?” But once you get used to the functions of inversions or non-canonical word order structures of English, your reading skill will substantially improve.

英語には、「てにをは」がないので、語順や構造を操作することで、いろいろな意味を表わそうとしているのです。また、単文だけ見ていると、倒置が起こる理由が見えてこない場合もありますが、文章の流れ全体(Cohesion)をみると、基本語順以外の語順を使うことに、合理的な理由があることが分かります。そのことを理解して reading に臨むと、読む力もどんどんとついてくるでしょう。

[Reggy is placing pieces of furniture on the room outline. Finished putting everything where he likes, he looks really satisfied]

[Suddenly notices the camera is running]

Oh, well, how was the lesson today? I hope you enjoyed it.

That's all for today. Good luck. Keep practicing, and see you next time.

=====

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(7)

語順を手掛かりに「前後のつながり」を見抜く

この Unit では、文の構造（特に語順）をちょっと工夫することで、前後のつながりが良い、分かりやすい英文になるということを見ました。このことを理解しておくと、実際に論文を読むときに役に立つでしょう。また、自分で調べたこと、あるいは実験の手順などを分かりやすく説明する場合にも、この点は大変有効だと思います。英語で書かれた論文などは、文法的な文がただ並んでいるわけではなく、その文と文のとの間に、必然的、合理的つながりがあります。そのことを意識して reading を続けていくことが、英語力全般を高めていくための重要なヒントを与えてくれるでしょう。

Unit 7 Sentence Connector (2): Pro-forms and Ellipsis

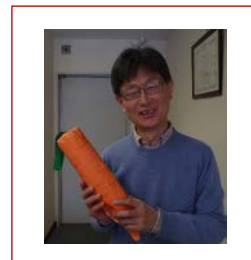
Emma (E): Hello, everyone. I am Emma Cook. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”. In Unit 3, we learned that the definite article *the* plays a significant role as a sentence connector in long English passages. In this unit, we will learn two other types of important sentence connectors: pro-forms and ellipsis.

Satoshi (S): みなさんこんにちは。奥聡です。このユニットでは、英語の長文を読む際に、とても重要なつなぎの表現を2種類学びます：代用表現と省略表現です。

E: Let us first look at the following Japanese example.

A: 西川先生は その人参をお食べになりましたか?

B: はい。西川先生は、それをお食べになりました。



Pro-forms and Ellipsis are Common and Natural 代用表現や省略はよく使われる自然な表現

Some of you might think that ellipsis is very informal and colloquial. However, it is completely natural even in the formal Japanese that we do not pronounce the subject and/or the object when they are clearly understandable from the context.

A: 西川先生は、その人参をお食べになりましたか?

B: はい。[] [] お食べになりました。

Completely natural to elide an understandable subject/object

「省略」と聞くと何か、正式ではないインフォーマルなスタイルという印象を持つかもしれませんが、日本語では、フォーマルな文体であっても、文脈から明らかな主語や目的語を省略するのは、ごく自然なことです。

Likewise, we use pronouns in English when the subject and/or the object are unambiguously recoverable from the context.

A: Did professor Nishikawa eat the carrot?

B: Yes, he ate it.

Pronouns can be used to replace an understandable subject/object

英語では、文脈から明らかな主語や目的語の繰り返しを避けるために、代名詞を使うことができますね。

In other words, pro-forms and ellipsis are important sentence connectors in human languages. Therefore, when you read English passages with long sentences, it is crucial to pay good attention to pro-forms and ellipsis to understand what the author intends to convey.

書き手の意図をしっかりと読み取るためには、代用表現や省略表現にしっかりと注意を向けることが重要なのです。Bearing this in mind, let us read a story of John Doe, a student of Hokkaido University.

[Story of John Doe (1)]

It was a busy day. You graduated from Hokkaido University today. You had a graduation ceremony and a party afterward with your teachers and with many friends from your research project team. Your parents and old friends were also very happy; they were all very proud that you received a graduation certificate from Hokkaido University.

You know, however, that this is not right. This is not what it should be. Yes, you know that your graduation certificate has a stain – an invisible stain. And you are the only person in the world who can see the stain on your certificate.

楽しいはずの大学の卒業式。しかし、John Doe の卒業証書には、本人にしか見えない大きなシミが付いているそうです。いったいどうしたのでしょうか？ 話の続きを聞いてみましょう。

[Story of John Doe (2)]

You cheated.

Professors repeatedly warned not to plagiarize, but you did. It was just once when you were a freshman, and you did it almost without knowing what you were doing. You were very busy writing three term papers, and had five other final exams ahead. So, you just copied and pasted two term papers that your friends wrote last year for the same courses. Then you turned them in, pretending that you wrote the papers all by yourself.

これは大変です。1年生の時にレポートで不正行為（コピペ）をしてしまったようです。ばれなかったのでしょうか？ ズルをした成績で学部移行したのでしょうか？

[Story of John Doe (3)]

Nobody noticed. Your professors were actually very happy that you wrote good papers, and you got an A+. With this fake “A+,” your GPA improved, and you managed to enter the department that you had wanted to join. With this fake “A+”, you became a member of this department that you could not have entered otherwise. Your studies at Hokkaido University afterward were all therefore based on your fake GPA, which was in turn based on your fake “A+.”

But nobody knows.

さあ、John Doe はどうなってしまうのでしょうか？

Well, before we see the second half of the story of John Doe, let us quickly look at the use of the pro-forms and ellipsis in this text.

Check the Pro-forms and Ellipsis 代用表現と省略表現を確認してみよう :

「訳す」のではなく「何とつながっているか」を読みといて

Consider what the word *they* refers to in this context.

まずは、この *they* が何を指しているのか考えてみてください。ただ「彼ら」と日本語に置き換えるだけでは不十分ですよ。

It was a busy day. You graduated from Hokkaido University today. You had a graduation ceremony and a party afterward with your teachers and with many friends from your research project team. Your parents and old friends were also very happy; they were all very proud that you received a graduation certificate from Hokkaido University.

You know, however, that this is not right. This is not what it should be. Yes, you know that your graduation certificate has a stain – an invisible stain. And you are the only person in the world who can see the stain on your certificate.

Yes, it refers back to “your parents and old friends,” which is obvious and thus the author does not repeat the whole noun phrase in full.

何を指すか明らかなので、同じ名詞句をまるまる繰り返すことはせずに *they* を使っているわけです。

Easy? Then, how about the two instances of *this* here? What do they refer to?

では、この *this* は何を指していますか?

The two instances of the word *this* here both refer back to the content of the previous paragraph.

この *this* は2つとも、直前のパラグラフの内容全体を指していますね。つまり今日は北大の卒業式で、先生、友達、両親、みなに祝ってもらっているという状況です。

Let us closely look at the next part.

What does this *did* represent here?

この *did* はここでは何を表しているのでしょうか?

Professors repeatedly warned not to plagiarize, but you did. It was just once when you were a freshman, and you did it almost without knowing what you were doing.

This is an elided form of the verb *plagiarized*. The dummy *did* is used to avoid the unnecessary repetition of the full verb, which is obvious from the context.

ここでは、文脈から明らかな *plagiarized* (盗作をした) をそのまま繰り返す必要がないので、*did* を用いた省略形を用いているわけです。

And, what does this *them* mean?

それでは、この *them* は何を指していますか?

You were very busy writing three term papers, and had five other final exams ahead. So, you just copied and pasted two term papers that your friends wrote last year for the same courses. Then you turned them in, pretending that you wrote the papers all by yourself. (「彼ら」?ではないよ)

英語が苦手な人の特徴として、*them* と聞いたらすぐ自動的に「彼ら」と頭の中で訳してしまうことがあるようです。

Do not try to interpret this *them* as referring to some “people” in the context.

それではだめですね。

これは「コピペをして書いてしまった 2 つの期末レポート」のことですね。文脈から読み取ることができます。

You can infer from the context what *them* means here. That is, “the term papers you wrote by copying and pasting.”

Let us go on to the next part. Now, what does this *otherwise* mean here? Try to consider the connection with the context.

さて、この *otherwise* はここではどのような意味ですか?

Nobody noticed. Your professors were actually very happy that you wrote good papers, and you got an A+. With this fake “A+,” your GPA improved, and you managed to enter the department that you had wanted to join. With this fake “A+,” you became a member of this department that you could not have entered otherwise.

Again do not just translate the word using your dictionary.

辞書を見て、その訳語「そうでなければ」とただ訳しただけでは、分かったことにはなりませんね。

Consider what the word means in this specific context.

Here, it means “if you didn’t cheat and use the fake A+”.

ここでは、「不正行為をし、それで得た偽の A+ の成績を使わなければ」という意味になりますね。

Well, as we have seen so far, in order to understand the author’s message accurately, it is important to consider the connecting functions of the pro-forms and ellipsis employed in the given context.

Comparison of Japanese and English 省略の方法、日本語と英語の興味深い違い

Let us now look at some interesting differences between Japanese and English.

[Scene 1]

Satoshi: 西川先生はお酒が好きですか?

Jang-san: はい。先生は~~お酒が~~ お好きです。 [←省略 OK]

Emma: You can drop the subject and the object in Japanese.



[Scene 2]

Emma: Does Professor Nishikawa like sake?

Jang-san: Yes, ~~the professor~~ likes ~~sake~~. [←このような省略は不可]

Satoshi: 英語では、文脈から明らかな場合であっても通常は、主語や目的語を省略できません。

[Scene 3]

Emma: Will Professor Nishikawa drink beer?

Jang-san: Yes, he will ~~drink beer~~. [←動詞句削除 OK]

Satoshi: 英語では、文脈から明らかな場合、
動詞句を削除することができます。



[Scene 4]

Satoshi: 西川先生はビールを飲みますか?

Jang-san: はい、先生は~~ビールを飲み~~ ます [←このような動詞句削除は不可]

Emma: In Japanese, you cannot drop the verb phrase.

As we have just seen, both Japanese and English have ellipsis, but specific ways of deleting elements are different among the languages.

英語も日本語も、文脈から明らかな要素を削除することは可能なのですが、どの部分を削除できるかは言語によって文法的に異なっています。

You have to be very careful of this difference when you read, write, and speak English. OK?

What ultimately happened to John Doe? ジョン・ドー君の結末は?

Now, let us read the second half of the story of John Doe.

[Story of John Doe (4)]

You got a good job at a big famous company which highly valued the graduation thesis that you wrote while you were at your department, which, however, you joined by cheating. Hence, your life from now on will be based on your graduation certificate with the invisible stain, which means that all your life is going to be based on

さあ大変です。1年生の時の不正行為がばれないまま、偽の成績で学部に進み、学位をとり、就職まで決まりました。John Doeの残りの人生も、全て、偽りの成績から始まっていることになってしまいます。

[Story of John Doe (5 and last)]

No, no!

You wake up in your bed sweating badly. You find yourself in your student dorm room. It was really just a bad dream. You realize that you are still a freshman at Hokkaido University and that the deadline for the term papers is still three days away. You are so relieved. Yes, you are *not* going to cheat, you are *not* going to copy and paste other people's papers, and you are *not* going to ruin your life. The exam period is tough, but you really want to lead a fair, happy, and honorable life.

Wrap Up まとめ

[Emma is connecting blocks of sentences using a big stick of glue. She finishes connecting them, looking really satisfied]

[Suddenly notices the camera is running]

Oh, how was the lesson today?

We have learned that pro-forms and ellipsis are very important sentence connectors. So if you pay close attention to these connectors when you read English paragraphs, you can understand the reasonable connections among sentences and thus surely capture what the author intends to convey.

The sentence connectors are necessary glue.

Satoshi: And they give you useful clues to comprehend English texts.

Emma: OK? That's all for today. Good luck, keep working hard, and see you next time.

=====

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(8)

代用表現 : 「訳語」を超えて

省略や代用表現に注意を向けることの大切さが理解してもらえたかと思います。そのような表現は、代名詞や指示代名詞だけではなく、次のようなものもあります。

therefore: 英和辞典には「それゆえに」と訳語が書いてあるかもしれませんが、「訳」よりも重要なことは、使われている文脈で「それゆえ」の「それ」とは具体的に何を指しているのかをきちんと確認し、理解することです。

likewise: 英和辞典には「それと同じように」とあるでしょう。そして、リーディングで出てきたときは、「それ」とは何か、つまりここでは「何と何が同じだ」と言っているのかを具体的に確認することが重要です。

最後に、otherwise にはいくつかの使い方が 있습니다。次の例で、それぞれ前の文とどのようにつながるのかを考えてみてください。

- (1) Put on your coat and gloves, otherwise you'll catch a cold.
- (2) You believe this plan works, but John thinks otherwise.
- (3) Your report is a bit too long, but otherwise it is almost perfect.

ヒント : (1) **if the situation were different** (i.e., if you didn't put on your coat and gloves)

(2) **in a different way**

(3) **apart from that**



Unit 8 Coping with Names and Numbers

Jeff (J): Hi, everyone. I am Jeff Gayman. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”. In this unit, we will consider how to deal with numbers and proper names in English texts.

Satoshi (S): みなさんこんにちは、奥聡です。このユニットでは、英語の数字と固有名詞との付き合い方を考えてみましょう。

まずは、次のベルギーについての例文を読んでみましょう。

J: First of all, why don't you read the following example silently?

[まずは黙読で意味をつかんで]

Belgium is an interesting country in Europe; its capital city is Brussels and the area of the country is 30,528 km² which is 1/12 that of Japan.

The economic growth rate is stable. It was 1.4% in 2018.

It is not very difficult to understand what is stated.

内容の理解はそれほど難しくありませんね。では今度は、声に出して読んでみてください。

[では音読すると?]

Now, why don't you read this aloud, especially considering how to pronounce the **highlighted parts** accurately?

Belgium is an interesting country in Europe; its capital city is **Brussels** and the area of the country is **30,528 km²** which is **1/12** that of Japan.

The economic growth rate is stable. It was **1.4%** in 2018.

Here is a trick in learning a foreign language when it comes to numbers and proper names. You may probably understand what they mean in many cases but you may not know how to pronounce them properly.

数字や固有名詞は字面をみれば、「意味」は分かることが多いですが、実際の正確な発音を知らなければ使えませんね。たとえば、「ベルギー」という国名は、英語で発音すると：

Belgium [beɪdʒəm]

(赤の部分が第一強勢)

首都のブリュッセルは：

Brussels [brʌslz]

日本語のカタカナ発音ではだめですね。Reading で出てきた時に、正確な発音を覚えておくと、聞き取りも楽になりますし、話すときも伝わりやすくなるでしょう。

So, there is an important tip when you read English texts. If you find a proper name, check the correct

pronunciation so that your listening ability and speaking ability surely get better.

Now, how about the numbers?

では数字の読み方はどうでしょうか。固有名詞以上に、目で見るとすぐに「意味」は理解できますね。もしかすると頭の中では、日本語の発音で読んでいる人もいるかもしれません。国の面積は、ちょっと大きな数字です。単位も含めてどのように読みますか？

30,528 km²

Thirty thousand, five hundred, (and) twenty-eight square kilometers

You may put “and” before the last two digits in British English, but not in American English.

Fractions (分数)

How about fractions?

では、分数の 12 分の 1 は？

1/12

a twelfth

twelfth は「12 等分したもの」という意味で、それが 1 つある、ということで、a が付いています。

a twelfth

したがって、12 分の 5 であれば、12 等分したものが 5 つ集まっているということで：

5/12

five twelfths

となります。複数形の -s が最後に付いています。

Decimals (小数)

Finally, how about decimals?

では、最後に、小数はどう読みますか？

1.4%

one point four percent

小数点の部分は英語では、そのまま point と読みます。

In the future you may make a presentation in English, when you have to pronounce various types of numbers. So it is again very important to learn how to pronounce numbers in English when you read English texts.

Reading の時から、数字が出てきたら、正確な発音を確認しておきましょう。

OK? Let us now look at some other examples of proper names in English which may sound very different from the corresponding Japanese “katakana” pronunciation.

Samples of Famous Proper Names 有名な固有名、分かりますか?

[都市名当て Quiz]

Jerusalem
Athens
Geneva
Vienna

They are all names of famous cities. What are they? How to pronounce them in English?

どこの都市名でしょうか? 英語での正確な発音は?

Jerusalem [dʒəru:sələm] (赤の部分)が第一強勢)

エルサレムのことです

Athens [æθnz]

ギリシャの首都アテネのことです

Geneva [dʒəni:və]

スイスのジュネーブ

And ...

Vienna [viənə]

オーストリアの首都ウィーンのこと

Jeff: Hi, Tomo.

Tomo: Hi, Professor Gayman.

J: You know what? Last summer I visited Italy and I saw the works of Michelangelo in Florence.

Tomo: Did you? In my case, when I was in Italy, I saw works by ミケランジェロ in フィレンツェ.

実はこの2人、同じ場所、同じ人のことを話しています。

ミケランジェロは英語で、

Michelangelo [maikəlændʒəlou] (赤の部分)が第一強勢)

フィレンツェは

Florence [flɔ:rəns]

Next. How about the following persons' names?

今度は歴史上の人名です。聞いたことがある人ばかりですよ。

[人名当て Quiz]

van Gogh
Mao Zedong
Copernicus
Aristotle

誰のこと？ そして英語での発音は？

van Gogh [væn gou] (赤の部分が第一強勢)

オランダの画家、ゴッホです

Mao Zedong [mau tsətuŋ] ([mau dzeduŋ]とも)

毛沢東のことです

Copernicus [koupe:rnɪkəs]

コペルニクスですね。

And ...

Aristotle [æristətl]

アリストテレスのことです

If you can catch proper names in a lecture or a conversation you are participating in, you may be able to comprehend what is being discussed. By contrast, if you don't understand proper names that appear in a speech, it might be very difficult for you to follow the talk.

固有名詞さえ聞き取れれば、何のことが話されているか分かる可能性が高くなりますし、固有名詞が分からなければ、話についていけなくなるかもしれません。

And if you pronounce proper names accurately, you will make yourself understood clearly.

Tips for Reading (long) Numbers (長い)数字との付き合い方

Now, let us consider more about numbers. Here are some tips for reading big numbers.

では長い数字を読むコツです。

[Tomo is reading a guidebook, and Jeff is passing by]

Tomo (tourist): [looking around with a guidebook] Excuse me, sir?

Jeff (scientist): Yes?

Tomo: Would you tell me how far Sapporo JR station is from here?

Jeff: Sapporo Station? [Quickly calculates] It's exactly 146,729 cm away from here.

Tomo: (puzzled)

Jeff: Ah, sorry. I mean it's one and a half kilometers away.

Tomo: Thank you.

長い数字の読み方は、コンマを利用するとよいでしょう。

Read the digits before the comma first, and say “thousand.”

まず、コンマの前の数字を読み、

8, ... eight

そして、thousand と言います。

thousand

And then read the digits after the comma slowly.

そして、コンマの後の数字をゆっくり読みます。

8,545
five hundred, forty-five

“Eight thousand, five hundred, forty-five”

Likewise, read the numbers before the comma first,

62, ... sixty-two

and say “thousand.”

まず、カンマの前を読み thousand と言います。

Then, slowly read the rest.

そして、残りをゆっくり読む。

62,871
eight hundred, seventy-one

“Sixty-two thousand, eight hundred, seventy-one”

You can read six-digit numbers in the same fashion.

6桁までの数字は、コンマを利用して同じように読めます。

Read the numbers before the comma, and say “thousand.”

146,... one hundred, forty-six thousand

and read the rest slowly.

そして残りを落ちついて読みます。

146,729
seven hundred, twenty-nine

“One hundred, forty-six thousand, seven hundred, twenty-nine”

Once you understand the rule, it may not be very difficult to read and thus understand long numbers in English.

一度、パターンを覚えてしまえば、英語の長い数字も読んだり、聞き取ったりするのも、それほど難しくないでしょう。

***, ###

→ ***thousand, ###

The key here is to use the comma properly.

コンマをうまく使うのがコツです。

How to Read the Clock 時計の読み方 ABC

Let us finally consider how to read the clock.

時間の表現も数字で出てくると、意味がすぐ分かってしまうので、英語でどのように読むのかをあまり気にしない人が多いようです。ただ、そうすると、実際に言葉で聴いたとき、あるいは伝えようとするときに、困ってしまいます。

6:10

10:05

9:47

Do you remember how to read them?

6:10 six ten (or ten past six)

10:05 ten five (or five past ten)

9:47 nine forty-seven (or **thirteen to ten**)

← 「10 時に向かってあと 13 分」

カッコの中の言い方は、「10 時に向かってあと 13 分」という意味で、13 to 10 と言います。

So, how about the last one?

4:58

Can you say it in two different ways?

“four fifty-eight,” or “two to five”

カッコ内の言い方もできましたか? 「5 時に向かってあと 2 分」という意味ですね。

It is very common to use the second way when it is close to the hour.

Now, finally, in English you can use “a quarter” in place of 15 minutes.



12:15

twelve fifteen or a quarter past twelve

Therefore, in addition to saying, “twelve fifteen”, you can also say “a quarter past twelve”.

quarter は 4 分の 1 という意味ですから、時計の場合「15 分」という意味になります。

Similarly, as well as saying “two forty-five,”

2:45

two forty-five or a quarter to three

you can say “a quarter to three”

「3 時に向かってあと 15 分」という言い方ですね。

Ok?

Now, here is a quick review quiz for you.

[Review Quiz]

Listen to the conversation and fill in the blanks.

Tomo (tourist): Excuse me? Do you know how long the train stays at the next station?

Jeff (informed local scientist): [Looking at the timetable] Well, yes, let's see.

The train stays at the next station from _____ to _____.

Tomo: [puzzled]

Jeff [showing the timetable to the camera]:

From “[tu: tə tu:] to [tu: tu:].” You see?

(解答は次のページの下に)

OK. Let us wrap up.

Wrap Up まとめ

Some might complain that reading and grammar do not give us practical skills of English.

Reading と文法ばかりやっているから、使える英語が身に付かないんだ、という声を時々耳にします。

However, it is not true. If you do your reading practice seriously and properly, it will surely provide you with rich and useful information for practical skills.

おおよその意味が読み取ればいい、という読み方ではなく、丁寧にしっかりと読む練習をすると、会話、聞き取り、そしてライティングのための重要な基礎力がたくさんつきます。

Think about the numbers and names we've learned today, for instance. If you try to recognize how to read proper names and how to pronounce numbers correctly in English, your reading materials and texts will be perfect resources for the improvement of your English skills, not only for reading comprehension, but also for writing, speaking, and listening skills.

実は、reading を「きちんとしたやり方」行えば、読む力だけではなく、書く力も話す力も聞く力もついてくるのです。このことは、今日のレッスンの固有名詞と数字の例からもよく分かりますね。

Tomo: Professor Gayman? How long have you lived in Japan in total?

Jeff [showing the card]: In Japan? [calculating] Let's see I've lived in Japan for 9,143 days in total as of today.

Tomo: [puzzled]

Jeff: Oh, sorry. [showing another card] About 25 years.

Well. That's all for today. Good luck, keep working hard, and see you next time.

[Review Quiz の解答]⁵

=====

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(9)

固有名詞・数字：やさしそうに見えるものこそ reading の時にしっかり確認を

固有名詞の発音は、日本語のカタカナ表記から想像がつくものもあります。Newton など。一方、英語音とカタカナ表記とが、かなりかけ離れたものもあります。自分の興味や研究に関係の深いものは、出てくるたびにきちんとチェックをしておくといよいでしょう。たとえば世界中で大学生ならだれでも知っている「ピタゴラスの定理」。英語では Pythagorean theorem ですが、正確な発音は？ 知らないと話しても通じないし、聞き取りもできないかもしれません。今は、みなさんの電子辞書の多くで発音を聞くことができますし、インターネットの英語辞書サイトでも簡単に調べることができますね。カタカナ発音との違いを楽しむくらいの気持ちで、興味のあるものをいろいろ調べてみると面白いでしょう。

数字は固有名詞以上に、「目で見て」意味がすぐに分かってしまうので、発音のことはほとんど気にしないことが多いかもしれません。また、数字の種類によって、読み方の慣習に違いもあります。たとえば、このユニットでやった、分数、小数、時計の読み方の他に、日付の読み方、電話番号の読み方、西暦の読み方など、同じ数字でも異なったルールやパターンがあります。自分の研究分野でよく出てくる数字や単位の述べ方なども、出てくるたびに、一般的な英語での読み方や、その研究分野での慣例など、きちんと確認しておく、海外の研究者と英語で専門の話をするハードルがぐっと下がるでしょう。

少し古いですが、興味のある人は以下の本に一度目を通しておくとよいでしょう。

保江邦夫 (2002) 『数学版 これを英語で言えますか』 (ブルーバックス) (講談社)

⁵ From two to two to two two. = From 1:58 to 2:02.

Unit 9 Inference and the Knowledge of the World

Jay (J): Hello, everyone. I am Jay Tanaka. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading.” In this unit, we will learn that “inference” is very important when you try to understand English texts.

Satoshi (S): みなさんこんにちは、奥聡です。このユニットでは、文章を理解しようとするとき、合理的な「推論」を行うことが非常に重要であるということを学びます。語彙力や文法力だけでは足りないのです。

J: We will see that your vocabulary and grammar alone are not good enough.

Let us first look at the following Japanese quizzes.

[Quiz 1]

次の例文で、誰が誰をクラス代表に推薦しましたか？

Who recommended whom as the class representative?

悠子は智子を尊敬している。だからクラス代表に推薦した。

Remember: we learned in Unit 7 that we can elide the subject and the object when they are easily recoverable from the context in Japanese.

後半部分で主語と目的語が省略されていても全く自然な文ですね。

And the most natural interpretation here is ...

推薦したのが悠子で推薦されたのが智子でしょう。

The subject and the object are parallel between the two sentences. Is it too obvious?

簡単すぎますか？

Then, how about the next one?

[Quiz 2]

誰が誰に対して優しいのですか？

Who is nice to whom?

悠子は智子を尊敬している。いつも優しいからだ。

This time, the subject of the second clause is most naturally understood as Tomoko.

智子は悠子にいつも優しいからだ、というのがもっとも自然な解釈ですね。

Notice that the subject in the first clause and the subject in the second clause are not parallel in this case.

自分の母語日本語であれば、前後のつながりや述語の意味などから総合して、省略されている要素を合理的に正確に推論をして理解しています。

You can reasonably infer the identity of the missing subject and the identity of the missing object.

Now, the same applies in English.

さて、英語でも同じことが当てはまります。

Here is another quiz in English.

[Quiz 3]

Who is *he* and who is *him*?

Bob admires Jeff so he is trying to be like him.

If you only appeal to the fact that *he* and *him* are both singular males, you might think that *he* can be either Bob or Jeff, and *him* can also be either Bob or Jeff.

もし、*he* も *him* も男性単数であるという情報だけに頼って解釈しようとする、*he* は Bob でも Jeff でもよくて、*him* も Bob でも Jeff でもよいということになってしまいます。しかし、実際はどうでしょうか。

The most natural interpretation here is that *he* refers to Bob and *him* refers to Jeff. It seems to be very easy because the subject and the object are parallel between the first clause and the second clause in this case.

ここでは Bob と Jeff が最初に出てきた順番の通りに、*he* と *him* が解釈されるので、とても易しく感じるかもしれませんが。

How about the next one then?

[Quiz 4]

Who is *he* and who is *him*?

Bob admires Jeff because he is always nice to him.

Again, just in terms of the gender/number matching, *he* can be either Bob or Jeff, and *him* also can be either Bob or Jeff.

ここでもまた、*he* や *him* が男性単数であるという情報だけを見ては、いけません。

The most natural interpretation here is that *he* is Jeff and *him* is Bob.

今度は出てくる順番がひっくり返って、*he* は Jeff を指し、*him* は Bob を指す、と解釈するのが最も自然です。

[A stuffed gorilla is on display, the sign saying “Don’t touch. A National Treasure”]

[Satoshi comes in, looks around carefully and touches the toy gorilla happily]

Jay [coming in]: Hey, Satoshi! Don’t touch! Can’t you see the sign?

Satoshi [surprised]: Oh! I’m sorry.

Jay blamed Satoshi because **he** had broken the rule.

What does this *he* refer to? You can easily infer that *he* refers to Satoshi in this instance.

日本語でも「ジェイは聡を非難した。規則を破ったからだ」といえば、「規則を破った」という述語の主語は明記されていないにもかかわらず、規則を破った人は「聡」であると、自然に推論できますね。

Now, let us consider more closely what is going on in our mind here.

私たちの頭の中で一体何が起きているのか、もう少し丁寧に考えてみましょう。

Our Mind Infers 推論する心

- (1) X admires Y
- (2) so **A** is trying to be like **B**.

We can make a reasonable inference that the situation in (1) is the cause of the situation in (2).

(1)の状況が(2)の状況の原因であると合理的に推論できます。

Here we make this inference based on our common sense or our general knowledge of the world.

ある人物 **X** がある人物 **Y** を尊敬しているという状態から、どちらの人物がどちらの人物のように振る舞いたいと思うかを、一般常識に基づいて合理的に推論をしているわけです。

- (1)と(2)の情報と私たちの一般常識から
- 「**A** = **X**」「**B** = **Y**」と合理的に推論している

This inference is reasonable because it is based on our general knowledge of the world, and the opposite interpretation is very inconceivable.

A と **B** を逆に解釈するのは、常識的に考えて大変不自然になるでしょう。

Consider the next example.

- (3) X admires Y
- (4) because **A** is always nice to **B**.

We can make a reasonable inference that the situation in (4) is the “reason” of the situation in (3).

(4)の状況が(3)の状況の「理由」とであると合理的に推論できます。

Here again, this inference is based on our common sense or our general knowledge of the world.

ある人物 **X** がある人物 **Y** を尊敬しているという状態の「理由」として、どちらの人物がどちらの人物に対していつも優しくしているかを、一般常識に基づいて合理的に推論をしているわけです。

- (3)と(4)の情報と私たちの一般常識から
- 「**A** = **Y**」「**B** = **X**」と合理的に推論している

This inference is reasonable again because it is based on our general knowledge of the world, and the opposite interpretation is very inconceivable.

A と **B** を逆に解釈するのは、ここでも大変不自然になるでしょう。

Let us summarize the points so far.

Interim Summary 中間まとめ

In order to have good communication with the author, you need vocabulary and grammar.

[書き手とよいコミュニケーションをするために必要なこと]

- vocabulary
- grammar
 - sentence grammar
 - text grammar
- **inference**
- **knowledge of the world**
(common knowledge)

However, you shouldn't forget you need the following two things as well: inference and your knowledge of the world.

単語と文法は重要です。しかし、それと同じくらいに重要なのが、合理的な推論をする力と世界に対する豊かな知識です。

When you read passages in your native language, say Japanese, you use your knowledge of the world and your ability to make a reasonable inference very naturally and almost unconsciously.

母語で文章を読んでいるとき、私たちはほぼ無意識に、世界に対する知識や推論力をとても有効に使っています。

It is a very good idea to try to use them more consciously when you read passages in a foreign language.

Bearing this in mind, let us consider a few more examples.

Smartphones and Selfies: An Example スマホや自撮りについて詳しくれば

If you are familiar with smartphones and selfies, the following passage is relatively easy to understand.

スマホによる自撮りに詳しくれば、次の英文の理解はそれほど難しくありません。

Self-portrait photos taken on a smartphone can be easily modified using PC technology: filtered selfies. Experts, however, warn that when some of them are posted on the Internet, they provide people with a wrong impression of what the person actually looks like.

smartphone

スマホや

filtered selfies

自撮り写真の加工

posted on the Internet

インターネットに載せる、といった話題に慣れていれば、このパッセージの理解はそれほど難しくありません。

In other words, your knowledge of the world certainly helps you comprehend what the author wants to convey. Now, here is a quick quiz again.

[Quiz 5]

What does this “them” refer to?

この them は何を指していますか?

Self-portrait photos taken on a smartphone can be easily modified using PC technology: filtered selfies. Experts, however, warn that when some of them are posted on the Internet, they provide people with a wrong impression of what the person actually looks like.

If you simply look for the closest plural noun phrase, you may mistakenly take this “them” as referring to “experts.”

機械的に複数形の名詞句を探そうとすると、一番近くにある experts 「専門家」を指すと読み誤ってしまうかもしれません。

If you use your commonsense knowledge, by contrast, you may easily notice that “posting experts on the Internet” is strange in this context.

しかし、常識を使えば、「専門家をネットに貼り付ける」ではおかしいことにすぐ気が付きます。

Your knowledge of the world and reasonable inference tells you that “them” refers to “filtered selfies” in this context.

常識と推論を使えば、them がここでは filtered selfies (加工した自撮り写真)を指していることが自然にわかります。

Your knowledge of the world and ability to infer are both crucial for comprehending English texts.

OK? Let’s wrap up.

Wrap Up まとめ

Your rich vocabulary and accurate knowledge of grammar are essential for comprehending English texts. Moreover, your ability to make a reasonable inference and knowledge of the world or general common sense are no less important. Reading is not just knowing words and grammar.

リーディングは単語の知識や文法だけではありません。

In order to read English texts correctly, that is, in order to have good communication with the author, your knowledge of the world and reasonable inference are crucially indispensable.

リーディングは総合力なのです。

[Satoshi is taking pictures of himself, using a selfie stick]

[Jay is coming in]

Jay: Hi, Satoshi.

Satoshi: Oh, hi Jay.

Jay: What are you doing?

Satoshi: I'm going to modify these pictures and make a perfect image of myself!

[looks satisfied, and is about to leave]

Jay [concerned]: Are you sure?

Satoshi [leaving]: Bye!

[Jay is seeing off Satoshi, looking concerned, but suddenly notices that the camera is running]

Well. That's all for today. Good luck, keep working hard, and see you next time.

Unit 10 Culture Bound — & General Conclusion —

Piers (P): Hello, everyone. I am Piers Williamson. Welcome to our special lecture “Modular Approach to Reading”. This is the last unit of this lecture series.

Satoshi (S): みなさんこんにちは、奥聡です。いよいよこのユニット 10 でこのビデオレクチャーシリーズも最終回です。今日は、外国語学習の中でもっとも難しく、同時に最も面白い側面を考えてみます。

P: In the last unit, Unit 9, we learned the importance of inference based on our knowledge of the world. Today we are going to consider a special type of knowledge about the world: Culture-bound knowledge.

Grammar and Literal Meaning are not Good Enough 文法と字面の意味だけでは不十分

Let us first look at the following conversation in Japanese.

A: 高校時代、何か部活をしていましたか?

B: 実は、冬の花園を目指していました

Do you understand what Speaker B is trying to convey here? Many Japanese people can easily infer from the utterance that Speaker B was a member of a high school rugby team.

多くの日本人は、即座に B さんが高校でラグビーをやっていたと理解できます。

This is an instance of inference based on culture-bound knowledge of the world.

日本の社会で長く生活することによって身に付いた知識に基づいて推論している例です。

Next, consider the following English example.

A: Do you have any plan with your family in February?

B: You know what? We've got Super Bowl tickets!

A: No kidding!!

なぜ、こんなに興奮しているのでしょうか?

If you are familiar with North American culture, you can easily understand the excitement of this conversation.

北米の文化圏の人であれば、多くの人が即座にこの興奮の意味が理解できるでしょう。

The Super Bowl is one of the most popular events in the U.S., and it is extremely difficult to get a ticket. As you can see from these examples, the information conveyed by language can be properly understood only when you have appropriate knowledge of the world; only a literal meaning is not good enough in many cases.

多くの場合、字面の意味の理解だけでは、伝えようとされている内容の理解には不十分であることが分かります。

Some knowledge of the world is universal and culture independent.

国や文化とは独立の世界に共通する知識もあります

And some is culture dependent, or culture bound.

そして、その国や文化圏の人にとっては常識ですが、その外の人たちには馴染みがないものもたくさんあります。

Our Knowledge of the World

Universal and Culture Independent

Culture Dependent or Culture Bound

For example, suppose you are reading an English passage and find words such as Nelson Mandela, Pacific Ocean, Nobel Prize, or GDP. If you are a standard educated college student, it is easy to understand what is being talked about.

大学生であれば、これらの単語が何を表しているか、常識的な知識として理解できますね。

Then, how about the following sentence?

A: How was your summer vacation?

B [very happily]: My wife and I visited the Cotswolds!

A: Wow, how nice!

If you are not familiar with English culture, you may not be able to imagine the feeling of Speaker B.

イギリス文化圏の外の人にとっては、Bさんの気持ちは、今一つピンと来ないかもしれません。

The Cotswolds is a very popular sightseeing spot in the U.K., which is designated as an “Area of Outstanding Natural Beauty.”

こうした国や文化に特有な知識を知っていて、はじめて、Bさんがとても喜んでいるということが理解できます。

Piers: Uhhnnn, let's see ...

[Piers, a scientist in a white coat, is looking into a teacup and wondering which hypothesis is more promising and worth trying.]

[Satoshi comes in]

S: Hi, Piers. What are you doing, looking into a teacup?

Piers: Well, I'm trying to decide which hypothesis is more promising and worth trying.

Satoshi: By reading tea leaves?



At this point, some of you may wonder whether we need culture-bound knowledge of the world in academic English.

大学での研究に必要な英語には、西洋文化の知識など関係ないのでは? と思う人もいるかもしれません。

So, let us introduce a real episode that happened between a scientist at Hokkaido University and a scientist overseas.

北大の科学者と英語圏の科学者との間で実際に起こったエピソードを紹介します。

Misunderstanding caused by Culture-Bound Knowledge: A Real Episode

実話にもとづいています

A Professor at Hokkaido University and a professor at a university in the U.S. were having a discussion, using email. They were trying to propose a promising hypothesis for a scientific problem they had been dealing with, and the Japanese professor asked if his idea was promising.

北大の先生が自分のこのアイディアはどうでしょかね、とメールで伝えました。

Then the American professor replied,

American Professor: It's like reading the tea leaves.

Upon hearing this reply, the professor at Hokkaido University said,

Hokudai Professor: So you think this is a good idea worth trying!

Then, the American professor got confused.

American Professor: What do you mean by “worth trying”?

Then, the Japanese professor got confused. Their correspondence went on for a while, each deeply misunderstanding the other.

ちぐはぐな会話がしばらく続きました。

What was the problem?

何が誤解の原因でしょうか？

In western culture, reading the tea leaves is a kind of fortune telling.

西洋では、茶葉を読むというのは占いの一種です

Therefore, “your idea is like reading the tea leaves” suggests that your idea is not worth trying as a promising scientific hypothesis.

アメリカの先生が伝えかかったのは、その考えは占いみたいなもので、科学的な仮説としては見込みがないよ、ということだったのです。

However, upon hearing “tea leaves”, the Japanese professor instantly imagined a tea leaf pillar.

北大の先生、「茶葉」と聞いて、茶柱のことを想像してしまったのです。

This is a sign, in Japan, that something very good is going to happen.

これは日本では、これから良いことが起こるという印なので、アメリカの先生の発言を、北大の先生は、自分のアイディアがよいものだと言ってもらえたと勘違いをしてしまったのです。



As we have just seen, culture-bound knowledge of the world is deeply rooted in our minds, and thus even scientific discussions are sometimes (unconsciously) affected by such knowledge.

[書き手とよいコミュニケーションをするために必要なこと]

- vocabulary
- grammar
 - sentence grammar
 - text grammar
- inference
- knowledge of the world
 - general/universal
 - culture-bound** ←

ここがもっとも難しく、かつもっとも面白いところ
外国語学習の醍醐味の1つ

Final Message for You 頑張れ北大生！

Reading is the foundations for all academic English skills.

Well, how was the lesson today. We hope you enjoyed it.

Since this is the final unit of this lecture series, here is our final message to you.

では、最後にみなさんへのメッセージです。

Reading is not just translation.

(リーディングは「訳すこと」ではありません)

Reading is communication with the author.

(リーディングは書き手とのコミュニケーションです)

Rich vocabulary is important.

(語彙力は大切です)

Accurate grammatical knowledge is essential.

(正確な文法も重要)

But moreover, your ability to make a reasonable inference is crucial.

(しかしそれ以上に、合理的推論力が不可欠です)

And your knowledge of the world is indispensable. (世の中に対する知識・常識もなくってはなりません)

Culture-bound knowledge of the world is sometimes required, which can be a stumbling block to foreign language learning,

(外国文化特有の知識も必要なことがあります。それが
外国語学習のつまずきの原因になるかもしれません)

but at the same time, it is the most interesting and significant aspect of learning different languages and different cultures.

(しかし同時に、そのような知識にふれることが、外国語や
外国文化を学ぶ上で、もっとも面白く重要な点です)

This is because one of the essential purposes of learning foreign languages at college is to cultivate your liberal mind;

(なぜなら、大学で外国語を学ぶ重要な目的1つが
みなさんのリベラルな心を豊かにすることだからです)

the mind that is willing to understand and respect other people's behaviors and opinions,

(他の人の行動や考え方を理解し、尊重する心です)

especially when they are different from your own. (特にそれが、自分の考え方とは異なる場合にでも)

Enjoy your reading activity,

(リーディングを楽しんで)

and broaden your perspective of the world.

(世界に対する視野を大きく広げよう)

=====

Tips from Center for Language Learning 外国語教育センターからのメッセージ(10)

Reading が苦手（不得意）な人：チャンスです

大学生になったので、点数や成績を気にせずに「学ぶ」大きなチャンスです。「苦手」「不得意」の理由が、友達と比べて成績が悪く恥ずかしいなどなら、今すぐ一旦それを忘れるとよいでしょう。気にすべき相手は、隣の友人でも、抽象的な点数や成績でもありません。もし比べるなら、昨日の自分、1週間前の自分でしょう。

この教材でやってきたように、Reading にはさまざまな要素が関係しています。語彙や文法も重要ですが、それだけではありません。語彙もただ「訳語」を覚える方法ではうまくいかないことも多いでしょう。そして、誰でも持っている「合理的な推論をする力」が重要ですし、「世の中に関する知識」もなくてはならないものです。英語そのものの難易度に関わらず、自分が好きな話題、得意な分野について書かれたものであれば結構読みやすい、という経験は誰にでもあるでしょう。こうしたさまざまな要素の中で、自分の得意なところ、好きなところを伸ばす、あるいは弱いところを具体的に考えることが有効な方法の1つでしょう。この教材には何か自分に合ったヒント、きっかけとなる材料があるはずです。自分のために大いに利用してください。

Reading は総合力です。そして、アカデミックな場面で必要なあらゆる英語力の重要な基礎です。

頑張れ北大生！

